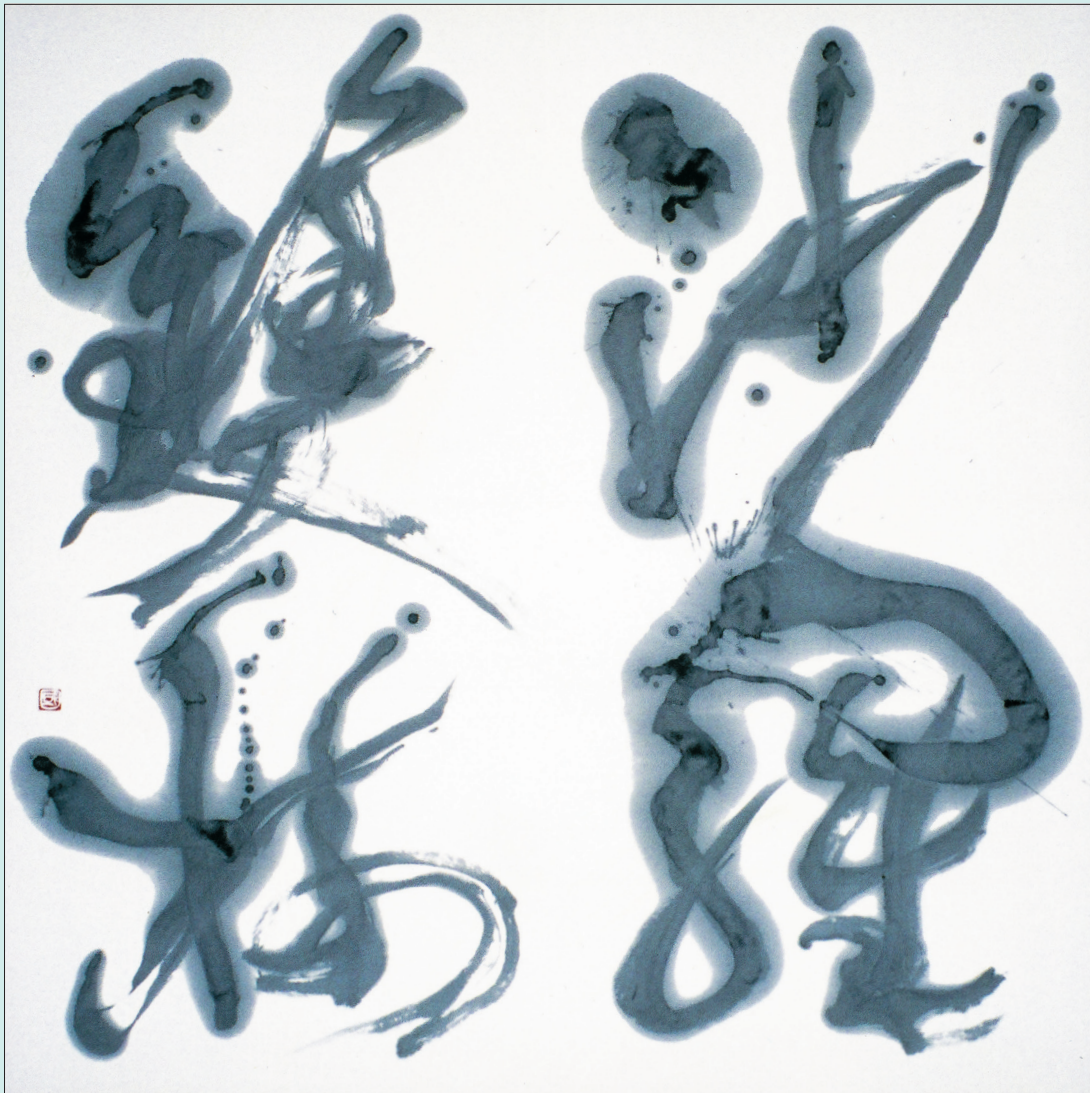


愛媛大学教育学部

第 106 号

同窓会報



愛媛大学教育学部同窓会事務局

☎ 790-8577 松山市文京町3番
愛媛大学教育学部学務係室内

☎ (089)927-9383(直通) FAX(089)927-8304

E-mail : dosokai@ed.ehime-u.ac.jp



師範学校 最終ランナー

同窓会副会長

峯本 高義

(昭三〇卒)

どうして師範学校を受験するようになったのかは定かではない。父の強い思いによるものであろう。七人兄弟のうち、兄、姉三人がすでに師範学校に進学しているので末っ子である私にも師範学校をと思ったのである。片田舎の貧しい農家の子供に教育を受けさせるには、経済的に考えても師範学校が最善であったのではない。

とにもかくにも、戦後間もない昭和二十二年春、師範学校予科を受験することになった。兄、政幸が本科二年生に在学中で受験に関する一切のことを取りしきってくれた。その様子を兄の日記を借りて記してみた。

○三月二十八日

弟受験のため準備する。米三升五合、金六百五拾円を用意する。

○三月二十九日

松山に弟を連れて行く。合格するか否かは判明せずといえども、自分

の考えでは、余りにも望みがうすい様である。

○三月三十日

昨夜は上灘(現伊予市上灘町)へ一泊、午後三津へ、一色旅館に投宿。本当に不潔な宿である。一泊、二人で七拾円取られる。後から人が来て八畳の間に五人である。

○三月三十一日

弟試験、学力検査と身体検査有り。合格せん事を祈る。弟の話では、試験の成績良好という。

○四月一日

口頭試問の日、諸注意を与えて送り出す。

○四月九日

合格発表を見に行く。幸いにも弟も合格していた。恐らくは駄目だろうと思っていたので予想は違っていた。合格は良いが、二人の学資には困ることであろう。

○四月十七日

お父さんと高義君は、こんぴらさん(香川県琴平宮)へお礼参りに行く。

○四月十九日

弟たちは夜十時頃に帰る。まるで大東京へでも行って帰った様な感じで話している。

○五月二日

弟の入学式。三津の学校へ行く。二組である。だれも皆純真そうな面を出す。校長が師範タイプをなくするようにとどくと説明をした。

○五月五日

弟が未知の社会へスタートを切つて初めての出校日だ。太山寺まで連れて行ってやりたいのは山々であるけれども、自分にも多くの用事があるので、豫二の米井君に依頼して連れて行ってもらう。

「愛媛大学五十年史」によると、「昭和二十年七月二十六日夜半、松山市は米軍爆撃機の空襲を受け、松山市中心部はほとんど灰じんに帰した。木屋町にあった師範学校の校舎は全焼した。九月からは戦災を免れた三津の女子部で本科生、太山寺通夜堂宿房、同地区の公会堂で予科生の授

修了證書

峯本 高義

昭和七年三月五日生

右の者本校豫科の

課程を修了したこと

を證する

昭和十六年三月二日

愛媛大学愛媛師範学校校長 井宮久

第一〇号

業が再開された。一とある。

太山寺での勉強が始まったが、学校と言えようなものではなかった。昼は教室、夜は寮になっていた。畳敷きで長机が並べられ、まるで寺小屋のようであった。部屋はうす暗く裸電球が天井からぶら下がっていた。

入寮は制限されていたので多くの者は、国鉄を利用して、今治、長浜あたりからも通学していた。私は上灘から四年間通学することになった。松山駅で下車、江戸町駅(現大手町駅)から伊予鉄電車に乗り、三津駅で下車し徒歩で太山寺まで行く

のである。通学時間は約二時間、しかも満員である。

上級生による「集団しごき」も度々あった。本堂の板間に座らされ、いろいろ注意されるがほとんど耳には入らず足の痛みをひたすらたえたものである。来年こそは自分もやっ

てやるからと思つたが学制改革により次年度から入学試験は行われず、万年下級生となり師範学校最終ランナーとなったのである。

昭和二十四年には、三津の女子部に移転し、太山寺参りはなくなったが、二十五年にはその女子部に警察予備隊(現自衛隊)が招致されることになり、木屋町の師範学校跡地に建てられたトタン屋根の仮校舎で雨音に悩まされたのも今はなつかしい思い出である。

学校教育法が、昭和二十三年に施行され、昭和二十四年五月三十一日には愛媛大学教育学部が発足、それに伴い師範学校は、愛媛大学愛媛師範学校と改称された。師範学校制度最終ランナーである私たちは昭和二十六年三月二日、予科四年の課程を修了した、ここに師範学校制度は完全に終了したのである。たった二年間のおかしな学校名ではある。

私たち最終ランナー生は、昭和二十六年度、教育学部三期生として、一般受験生とともに受験し、二年課程、四年課程に進学する者、他の大学に進学する者などさまざまであった。

私は、初等教育学科四年課程に進学し、昭和三十年三月十九日、無事卒業し「教育学士」として教壇に立つことになったのである。途中一般受験を通したとはいえ、同じ学校に落第もせず八年間居たというのは、めずらしい存在であろう。

791-8067

松山市古三津

三一六一九

目次

表紙 元愛媛大学教育学部教授 菊川 國夫

題字 菊川 國夫

師範学校最終ランナー……………(1)

心 響……………(2)

「大原の旅の教え」……………(2)

学部は今……………(3)

「国語研究室 三浦和高先生こんにちは」……………(3)

「地域から学び 地域に貢献する」……………(3)

「ふるさと実習」その計画・実施……………(3)

「ふるさと実習」を体験して……………(3)

「地域と共に育ち育てる教育実践力」……………(3)

「愛媛大学子とも見守り隊」を守るんジャー……………(3)

表紙について……………(8)

菊川 國夫

職場便り……………(9)

「自分でできる支援を」……………(9)

附属特別支援学校教諭 小玉 善民

「みんなのかがやき」……………(9)

四国中央 松柏小教諭 西岡真由美

「子どもたちとともに」……………(9)

新居浜 角野小教諭 鴨田 礼子

「一期一会」このすてきな出会いを大切に……………(9)

松山 津和地小教諭 渡部 賢佑

「閉校を迎えるにあたって」……………(9)

「五年間を振り返って」……………(9)

今治 桜井中教諭 白石 裕美

「今を支える愛大での学び」……………(9)

(株)エス・ピー・シー社員 高瀬 雅子

放送大学二期期入学生募集……………(9)

教育学部の組織構成……………(16)

林傳次先生の生涯を貫く実践……………(17)

叙勲・受賞……………(18)

大原の旅の教え



松尾多美子 (昭四七卒)

雨に煙る春先の京都大原を歩き、辿り着いたところは寂れた小さな寺であった。誰一人観光客のいない本堂は、静寂とほの暗さに包まれていた。大原の三千院を指してきた私であったが、引きつけられるように、三如来座像の前に正座をし、手を合わせていた。この静かで心落ち着く雰囲気の中で私は、過去を振り返り未来に思いを巡らせていた。慌ただしい日々の中では持てない時間を心ゆくまで満喫したとき、気がついたことがあった。このように心を落ち着けて物事を考える時間が私になかったのではないかと。目先の成果に惑わされ、生徒や教師の僅かな変化に気づいていなかったのではないかと。心を開いて、目の前の生徒を、教師を見なければならぬ。そして、穏やかな心ですべてを受け入れるゆとりが欲しいと思った。指導の効果は、子どもの変化に表れる。子どもの変化を見

る目が見なければ良い指導ができる訳がないのである。良い方向に変えてやろう、変えてやろうとはしていても、受け手である子どもが見えていないのでは変えられないはずがない。まして、人を変えること自体元々できないことなのではないか。そう確信を持って思ったのであった。

教育者の端くれとして、教育にあたる者は、より良い方向に導く使命をもっている。その使命のほんのわずかでも実行するためには、子どもが自分自身でより良い方向に変わろうとする意欲を助長することではないのか。そのためどんな言葉が意欲につながるのか。的確な言葉を選び、子どもにぶつけていかなければならないことを痛感するのであった。

常に心がけていることがある。全体指導はティーチングで、個別指導はコーチングでということである。ティーチングは知識を伝授し、導くべき方向をハッキリ示し、コーチングでは、その人の短所を見ないで長所を認め、それを本人に伝え、そのことにより本人の意欲をかき立て、長所をさらに伸ばすのである。いかにやる気にかせるかはこの個別指導の言葉がけによるものである。そして、成果が出なくても頑張るために、次のような例を自分の心の中に置いている。教育とは、洗面器に入っ

た水の中に円を描くようなものであり、描いては消え、描いては消えるけれど、ずーっと続いて円を描いていると、同じ方向に水が流れ渦となる。一度だけ円を描いたのでは水面に何も残らない。しかし、継続すると、円を描いて無くても、その渦はかなりの間回り続ける。勢いのある渦にするか、動かない水面にするかは、教育者である教師に任されている。



今、私は校長として学校経営を任されている。洗面器の中を学校と見るならば、あちらでさざ波、こちらで大波が立っているのかもしれない。しかし、それらの波を一つの方向に回していくことこそ必要なことではないのか。洗面器を学級に見立てても同じことがいえるのではないかと思っている。もし、大波と大波のぶつかり合いが起こっていったら、学級は二分しており、大波と小波がぶつかっていけば、いじめが起こっているのかもしれない。このように、目の前の状況を、少し別の角度から冷静に見つめる目を持ちたいと思うのである。日々の仕事に追われ、目の前の事実をとらえることに一杯の日々の中で、心を穏やかに

保ち、冷静な目を持つことは、なかなか容易な事ではないが、努力をしてみる必要のあることであると思っている。

その寂れた寺を出て、さらに十分くらい坂道を奥に進むと、音無の滝に着いた。辺り一面を滝のしぶきが包み、ドードーと落ちる滝の音が周囲の山の緑に吸い込まれていく。その音の中に私は立っていた。音無の滝の由来は、良忍上人が声明を唱えると、滝の音がびたりと止まったことに由来しているとか、自分の精神の置き方によって音さえも聞こえなくなるのだろうか。人間の心のコントロールの力を考えてみた。一方では、滝の音が声明の声と和し一体となつて、滝の音が声明の一部となつていったとの解釈もあるそうである。良忍上人を教師とすれば、滝のように自分の思いのままに行動する子どもたちを、規制するのではなく一体となつて、同じ方向に歩ませることができれば、こんなすばらしい教育はないのではないか。音無の滝は、教育に不可能はないと示してくれたような気がした。春の大原の旅は教育を振り返る反省の旅であった。

799-3125 伊予市森六三七

文芸.....(19)
川柳 上田 千鳥
俳画「伍健師の色紙に魅せられて」 仙波 弘子
「詳しく見る」 西島 節子
短歌 森貞 和雄
「老いのドラマ」 北岡精次朗
「漢詩」伊予長浜八景(2) 豊嶋 睦
今、教育に思うこと.....(22)
「教育の動向に思う」 小野植元幸
先輩を偲ぶ.....(22)
故「森岡 数策」先生(八) 上甲 修
同期会.....(23)
「愛師二十二年関東同期会」 谷口 敬
第十一回愛媛大学教育学部 同窓会懇親会のご案内.....(24)
懇親会の思い出.....(25)
「懇親会に参加して」 お知らせ.....(26)
「愛媛大学サテライトオフィスに注目」.....(26)
平成二十年度愛媛大学教育学部 支部長会議報告.....(27)
平成十九年度同窓会役員一覧表.....(29)
旧愛媛大学歴史学研究会 補完資料について.....(11)
朋友会館の利用案内.....(13)
教育学部同窓会ホームページ開設のお知らせ.....(14)
会報の送料納付について.....(23)
同窓会への寄付者 会報送料送金者名.....(30)
結婚相談.....(30)
原稿募集.....(31)
敬 申.....(31)



研究 室 訪 問

国語研究室

三浦和尚先生今日は

五月の爽やかなそよ風が緩やかにカーテンを揺らす三浦先生の研究室におじゃまをした。先生は大学の講義をはじめ県下小中高の国語教育を中心とした授業指導・研究活動の指導、社会教育関係の講師、執筆活動と多忙な日々の中で貴重な時間を割いてお会いして頂いた。

先生は、平成九年から四年間、附属幼稚園の園長として、平成十五年から四年間は附属小学校の校長として活躍されていた。そこでその経験を中心にお話を伺った。

幼稚園は私の教育観を変えた

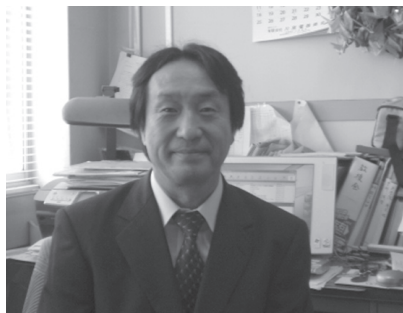
もともと私は広大で中高の教員をしていたので、幼稚園は全く新しい世界での未知な体験・経験の毎日で非常に楽しい四年間を過ごさせて頂いた。そこから、教育というものについての自分の見方、考え方が変化して、「幼児教育、特別支援教育が教育の原点だ」という意味が、よく分かりましたね。

幼稚園で先ず分かったことだが、三歳児が入園してくるがその子どもたちは、三歳になったばかりの子もいるし四歳に近い子もい

て、その発達段階は大きな差がある。私が、中高の教員であったとき、「中学二年生になってもまだこれも出来ないのか。」とか「まだこんなことをしているのか。」との目で見てしまう傾向があったが、幼稚園の先生は「三歳になってもまだボタンがかけられないのか。」などは絶対に言いませんね。「もう五歳だからそろそろこれができるようになる」といいね。」という言い方をしますね。この子はこのような状態だから、こういう風にしているこうと、一人ひとりをしっかり見つけ、その子に合わせて育てようとするのが幼稚園教育だなあと、先生方から教育の原点を教えられましたねえ。それまでは、「私は比較的子どもの立場に立っている。」と思っていました。それがもうくも打ち砕かれましたね。「今まで、なんて残酷に子どもたちに接していたのだろうか。」と深く反省もさせられました。

また、先生方から、私は「自分には絶対出来ないことを、この先生方は自分の専門性を十分生かしてしっかりと子どもたちを育て

ているのだ。」と心の底から感じました。そうでしょう、「園長先生ピアノを弾いてみて、子どもたちと楽しく踊ってみて、二、三時間この三十人ばかりの子の面倒見て」と言われても、私は何一つとして出来ないわけですからね。ですから、幼稚園生活の中で、私と先生方とは「自分には絶対に出来ないことをあなた達はやっているのだ。園長には私たちができないものがある。」との専門性を通じての相互理解、相互尊重の中の幸せな四年間でした。



大学学部・研究室からの活動

平成二十一年度から教員免許更新制が始まる前に、文科省は国の更新講習プログラム開発委託事業として試行講習全国百一大学法人のうち愛大も採択された。現在、三浦先生は愛大における推進の中心者として活躍されているので、その内容と現況をお伺いした。

▲教員免許更新制度について

本格実施を控え、今年度はその準備のためのトレーニングを実施して問題点を洗い出すと言うこととなります。実施プログラムは

七コースあってこの夏中に実施を予定しています。今年の県下の受講対象者は幼小中高の先生一千四百名程度(平成二十三年末をもって三十五、四十五、五十五歳になる教員を対象として二十一年度から本格実施)といわれ、本実施では一日六時間の五日間計三十分の講習実施になります。校種、免許教科等からみて講習内容が多岐に渡ること。東・中・南予の三地区で実施すると、愛大教員は夏休み三地区を移動し、全体総計数百時間の講習になる。文字通り講師も受講者も大変ハードなスケジュールとなります。

▲日本俳句教育研究会について

このほど「俳句嫌いの子どもをつくらない」「県下の国語教員に俳句への関心を高めてもらい、より高度な句作のノウハウを伝えること」で児童・生徒の指導に生かすことを目標に、県内の教員や俳人十五名が中心となって発足しました。

▲新学習指導要領も考慮し児童・生徒への指導を更に充実させるため

「異なる言葉(イメージ)を組み合わせる取り合わせなど技法にかかわる知識を教員に伝えたい」と、「小学校も含め、裾野を充実させ、県全体のレベルアップを図る」をめざし、現在、大学、高校、中学校、小学校教員、国語同好会、愛大教育学部学生などにも会の参加を呼びかけています。

▲書家 三輪田米山没後百年について

今年の十一月三日は米山百回目の命日です。そこで、十二月に約十日間愛媛大学図書館で当図書館にも米山の貴重な資料を保有しているの、それらを交えて公開展を実施する予定です。また、三輪

田米山顕彰会主催で十一月末から椿神社において二週間ほど米山没後百年展を開催の予定です。それと合わせて米山の書と人を紹介する出版を計画しています。

卒業生 同窓会へメッセージ

何時も感じることだが、教育学部の学生は真面目で素直ないい学生が揃っており、この学生をうまく育てられないならそれは我々の責任と痛感しています。

卒業生には、どうかバイタリ

ティー溢れる社会人であってほしい。また、教育学部は大学入学から卒業、そして退職まで「教師の成長物語」をキヤッチフレーズに掲げ生涯をかけての繋がりをものつ心意気でいきます。「どうか、いつでも大学へ帰ってきて下さい。」と声を大にして呼びかけたいです。そこには院生として帰ることもしかり、そうでなくても、日々の生活のステーションとして立ち寄ることもしかり、それぞれの立場で、自分を見つめ直し、新しい知恵を取り入れリフレッシュして現場に凛として帰って欲しいものです。

同窓会には、「地方大学は地域

社会をないがしろにしては存在しないです。どうか、百万馬力をもったサポーターとして、常に学部を支えていって欲しい」と願っています。

いつまでも先生とお話は尽きなかった。最後に先生は、「中国の教育学部だったら絶対うちがいいですよ。」と、満面の笑顔で話された。折しも研究室にはアカデミックな薫りのする風が吹いていた。

地域から学び 地域に貢献する

教育学部は、地域に立脚する大学という立場で、学校現場や地域社会とよりよい双方向的な関係を築き、様々な連携や交流をしています。地域での活動に、大学生も積極的に参加し、地域に貢献できる優れた人材の育成を目指しています。

愛媛大学総合型 地域スポーツクラブ

平成十八年四月、愛媛大学に全国の国立大学法人では初となる総合型地域スポーツクラブが設立しました。このクラブは、教育学部の教員と学生が主体となって運営・指導しています。

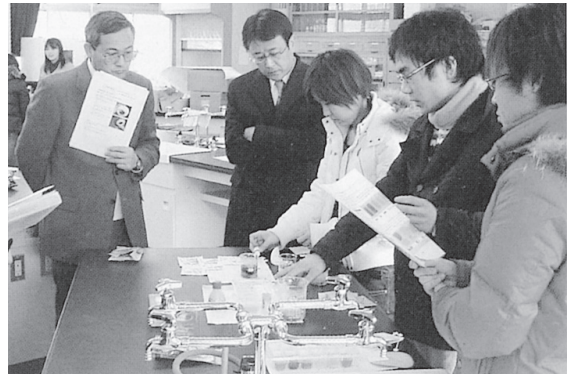


キッズサッカー教室の様子

愛媛大学総合型地域スポーツクラブ
<http://www.ed.ehime-u.ac.jp/~ai-spo/>

理科教育研修会

「理科教育研修会」は、教育現場の先生を対象にした教員研修に大学生が参加して共に学ぶ自主的な研修会です。授業以外にも様々な研修会が開催されています。



研修会の様子

理科教育研修会
<http://ed58.ed.ehime-u.ac.jp/~edsci/>

教育学部

教育学部は、地域の教育研究・教育実践の充実・発展のために、松山市教育委員会（平成十四年五月）、今治市教育委員会（平成十五年四月）、愛媛県教育委員会（平成十五年八月）、松前町教育委員会（平成十九年三月）と相互に連携協力する旨の覚書を取り交わしました。

◎詳しい活動を知りたい場合は、
教育学部ホームページをご覧ください。

<http://www.ed.ehime-u.ac.jp/~edhp/>

ふるさと実習

その計画・実施

「ふるさと実習」(正式名称「教育実践体験実習」)は、教育学部(の企画)として、多くの教育関係機関の協力により平成十九年度より実施されている。

愛媛大学教育学部でも、教員養成カリキュラムの見直しにとりかかり、平成十六年度の前半に「教員養成カリキュラム再構築ワーキンググループ(以下、再構築WGと記す)」が学部長の下に作られた。このWGは、それまでフレンドシップ事業に関連していたメンバーの中から選出された五名で構成された。

再構築WGでは、養成しようとする教員像に基づきカリキュラムの点検を行って、改善すべき点を洗い出した。その一つが、実習(教育体験)の不足であり、特に二回生時に実習科目が存在しないことであった。一回生前期には、附属校園等で「観察実習」を行うが、ほとんどが二回程度の授業観察であり、三回生時に行う「教育実習」までの教育体験が、あまりにも乏しい状況であった。

体系的なカリキュラムの構築のためには、単に教育体験の科目を



置くのではなく、教育実習につながる科目を作る必要があった。そこで、三回生の教育実習に二回生を参加させること、特に授業研究(組別研究会・教科別研究会)に参加させて、教育実習に向けた意識付けを行うプログラムを作った。これは新カリキュラムで「ブレ教育実習」として実施しているものである。しかし、カリキュラム全体を見渡すと、「ブレ教育実習」の導入だけでは教育実習までの体験が授業観察にとどまっており、時間数としても物足りない。そこで企画したのが、この「ふるさと実習」である。

平成九年七月に出された教育職員養成審議会・第一次答申の中で、問題点が提起されている。そこで、教育実習を補完する実習として、**「教員のさまざまな職務を観察し、教職に対する理解を深めること」**を目的としたものを考えた。

実習校については、母校をはじめとする出身地の学校で実習を行う場合については、柔軟に対応することが適当である。と考える。学生の出身校にお願いすることに。教職に就くことを希望する出身地の学校で教育実習を行うことは、早い段階から地域の教育等を知る上で意義があり、出身校での教員を目指す学生が多いことを考えると、出身校での実習経験は、その地域や学校における教育目標や育てたい児童・生徒像を知る良い機会となる。との積極的な理由からである。

また、最近の、教員に対する社会からの厳しい評価の中で、少なからぬ学生が、**「教員は多忙であるにもかかわらず、社会から厳しい評価を受けるだけの、報われることが少ない職業」**という意識を持つようにもなっており、教員という職業への意欲が乏しくなっていると感じられる。教育実習に際しては、「事前に学生の能力や適性、意欲等を適切に確認するなど、取組の一層の充実を図ることが必要である」(中教審答申)のは当然であるが、忙しい中にも、子ど

もと関わりその成長を見守る喜びがあることを知る機会が必要である。学生の多くが、教員を志望した動機として過去の恩師の存在をあげる。恩師のいる「ふるさと」で実習を行うことで、教員を志望した原点を振り返り、教員という職業の魅力を見ることができるとする。

以上のような理由で、「教育実践体験実習」を構想し、実施に向けて関係機関へ相談を図った。当初は愛媛県内を想定しており、他県は難しいであろうと考えていたため、愛媛県以外の出身者は松山市内の公立校にお願いをすることとして、松山市教育委員会に打診をした。この際に相談に乗って頂いた武田峰紀管理指導監(現松山市立日浦小・中学校長)に「ふるさと実習」という通称を付けて頂いている。また、愛媛県教育委員会の堺雅子義務教育課長(現松山市立桑原中学校長)には、愛媛県内の市町教育委員会、教育事務所への連絡等で支援をいただいた。そのほか、県教育委員会、松山市教育委員会の方々のご支援により、この実習が実現した。

平成十八年の秋から、実施に向けた作業に取りかかり、概要や手続の流れ等を作成して説明会を開いた。愛媛県外については、概要を送付してお願いした。結果としては全ての学校に引き受けて頂くことができた。今後は、各学校

の事情等で実習が困難なケースも出てくると思われるが、十九年度の実施結果から、多くの場合は今後も引き受けて頂けるのではないかと期待している。後は、大学教員が責任を持って送り出す体制をしっかりと作ることが重要であるとして、実習先の訪問や意見交換会で実習校から得た意見等を参考に、改善の努力をしている。

平成二十年度の「ふるさと実習」については百十名を超える申し込みがあった。夏期休暇中に開かれる選択科目であるにも関わらず、自らの適性を測り資質・能力を向上させようと積極的に履修していこうとする学生の姿が垣間見られ、活気溢れる大学・学部を創り出していくものとして、この「ふるさと実習」は、今強力に推進されている。



「ふるさと実習」を体験して

三回生

松木 里絵

1、実習の概要

【一日目】

始業式に参加し、その後、全校児童の前で挨拶、大掃除・集団下校をしました。児童の下校後は職員会議に参加させていただきました。

【二日目】

総合の時間では並び方決め、体育ではリレーの選手決め、音楽では運動会の歌の練習などをしました。また、全校で運動会結団式をするなど、この日は運動会に向けて動き始めた一日でした。

【三日目】

体育（運動会練習）、国語、道徳、算数などの教科の授業のほかには身体計測がありました。また、愛媛大学の花熊先生による研究会に参加しました。

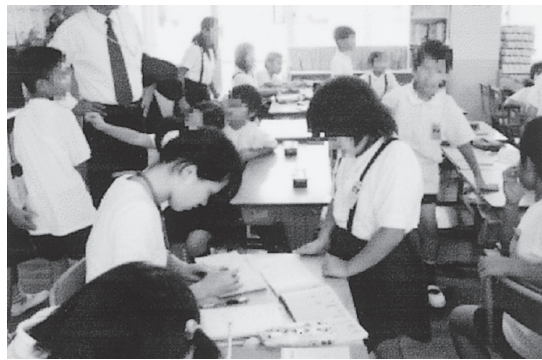
【四日目】

理科、算数、社会、書写など、全て教科の授業でした。昼休みに

は全校でグラウンドの石拾い、六時間目には委員会活動がありました。

【五日目】

算数、体育（運動会練習）、社会、音楽、国語といった教科の授業をしました。また、この日から運動会特別時間割が始まりました。始業式からの五日間を通して、授業中はもちろん、給食の準備・後片付けや、掃除、休み時間において、児童と関わらせていただきました。また、毎日の朝の会で健康観察をさせていただいたり、夏休みの課題の添削や朱書き、作品の出版の準備などをさせていただきました。



2、実習で学んだこと、印象に残ったこと

私は清水小学校の四年生のクラスで実習させていただきました。この実習では教師として子どもに接することを最も大きな課題と考えていたので、教師の仕事の内容、時間の使い方を知る、子どもを叱れるようになるということを目指に取り組みました。

実習を通して、まず、教師の仕事は、本当に時間との戦いだという印象を受けました。忙しい時期だったということはあると思いますが、提出物のチェックや作品に対する朱書きなど、時間を有効に使う必要がよくこなさなければ、すべき仕事が多すぎて終わらないと実感しました。しかし、子どもに対する関わりを適当にしてみようようなことはなく、常に子どもたちの様子を見ていたし、休み時間や給食の準備時間などできる限り子どもに関わっていたのが印象的でした。今回は教科指導の様子はあまり見ることができなかったのですが、会議への参加や放課後の仕事など、今まで知らなかった仕事を多く学ぶことができました。

次に、私の子どもとの関わり方

について、これまでの実習のように友達のような関係ではなく、教師という立場であるとしっかり意識して接することができたと思います。今までの実習で、子どもを叱ったり注意したりすることができないということが私の課題だと感じていたのですが、今回五日間という期間で子どもと関わり、これまでならば何も出来なかったような場面で子どもたちに働きかけることができるようになり、それによって児童も「先生」として接してくれたと思うので、大きく成長した点だと感じています。また、朝の会のととき一人でクラスを任せられたり、身体測定するとき男子を任せられたりと、一人で考えて行動しなければならぬ状況が何度もあったのですが、次第に臨機応変に対応することができるようになりました。実習担当の先生にも時間や予定の変更柔軟に対応できなければならぬと言われ、本当にその通りだと感じました。

今回の実習を通して最も大きな成長だと感じたのは、前にも述べたように、これまでの実習のように友達のような関係ではなく教師として接することが出来たということです。しかし、どこまで子ども

もの話を聞くべきなのか分からずに困ってしまうことが何度があったので、これからの課題であると感じています。気を引きたいためにわざとまじめに取り組まなかったりする子に対し、どこまで取り合うべきなのか、どうゆう風に関わっていけばいいのかを学ぶことを今年の教育実習での課題のひとつにしたいと思います。また、この実習では教師間のネットワークや助け合いの重要性を学びました。些細なことでも情報を共有することが円滑な学校、学級運営や安全管理に繋がっていることを実感しました。私も今回、疑問や不安に感じるものがあつたらすぐに相談や報告をするように心がけていきましたが、今年の教育実習でも報告・連絡・相談を大切にして、より成長できるように取り組みたいと思います。



地域と共に育ち育てる 教育実践力

教育学部では、地域での教育実践ボランティア（フレンドシップ活動）を通して地域に貢献し、そして地域から学ぶ学習を充実させています。

地域連携実習（1～4年生）

愛媛大学近隣の学校・教育機関の協力のもと、学生の主体的な参加による教育体験活動を通して、教育実践に必要な知識や技能を高める実習です。



学生がキャンプを企画運営する子どもリーダー村



体育授業の学習支援アシスタント



土曜日に実施しているワクワクチャレンジサタデー



「えひめ授業の鉄人」によるわかる授業のための講義



教育実践体験を振り返り、学びの質を高めます



愛媛県警による不審者対策の指導

地域連携の授業科目（省察科目）

実習経験を大学で深めるための省察科目も充実しています。教育機関や学校現場の先生を大学に招き、現代的な教育課題についての講義やディスカッションなど、教員に求められる実践的な知識を学びます。

愛媛大学子ども守り隊 「守るんジャー」

代表・理学部三回生
安養寺智也



平成十九年三月、私たちは起ちあがりました。モーターゼーション化の影響から交通量増加により増える交通事故、連日連夜報道される児童を狙った目を覆いたくなるような悲惨な事件……それらに対し、何か自分たちにできないだろうか、小さくてもいい、何か行動に移したいという思いから、松山市立道後小学校で週三回の児童の下校時見守り活動がスタートしました。

「安全な愛媛を子どもたちに」というスローガンから、愛媛全体の安全を意識したオレンジ色のパーカに身を包み、子どもたちに名前を覚えてもらえるようにと首にお手製の名札をかけ、私たち

は子どもたちと下校路を一緒に歩いています。今では、私たちが道後小学校に着いただけで子どもたちが「守るんジャー」、「智也お兄ちゃん」と積極的に話しかけてきてくれ、下校の時には私たちが手をつないで帰ってくれて、私たちがしてもとても嬉しいです。それだけでなく、一緒に下校を繰り返す中で、子どもたちの成長が見受けられます。もちろん身長が大きくなったり、ちよつと難しい言葉を使ったりもそうですが、安全に対する意識が高まり、自発的に横断歩道の左右確認ができるようになり、こちらとしても心震える喜びを感じました。

そして、気付いたことも多々あります。例えば、今の小学生は地域の人にもあいさつができない傾向にあるということです。保護者や学校が不審者に対する注意を十分に行っているためかもしれませんが、子どもたちが見知らぬ人に警戒しているような感覚を受けます。活動を通して交流を深めると、とても明るく元気な子どもたちに……今の日本社会に疑問を持つとともに、私たちが見守り活動を続けることでこの状況を緩和したいと思いました。

また、私たちが小学生の頃には、地域の人たちが「おはよう」「こんにちは」「さようなら」などと声をかけてくれました。今、活動中に出会う地域の人でそのような方は正直、少ないと言えるのが現



状です。(もちろん声をかけてくださる方もいます。)この現状を変えていくためにも、私たちは地域の人たちに積極的にあいさつをするということも大切に行っています。私たちは守るんジャーですが、いつも活動しているわけではありません。もし、子どもたちに何かあったとき、地域の人たちの力は本当に大きなものであると思います。守るんジャーが、今ある地域の力をさらに大きなものにしていくための、一つの良い刺激になればいいなとも思っています。

私たちのサークルを快く受け入れてくださった道後小学校はとても温かく、見守り活動だけでなく学校の行事にも誘ってくれています。遠足、文化祭、安全マップ作りなど大学生活にはない懐かしい経験がたくさんありました。運動会では対抗リレーに参加させてもらい、守るんジャーと小学校の先生方チーム・PTAチーム・おやじの会チーム・小学生選抜チームで競走し、結果は惨敗。倍近く年上のおやじの会には大きな差をつけられて大敗し、一位はまさかの小学生でした。今年こそはと、リベンジに燃えて自主的に足腰を鍛



錬しているところです。また、池田小学校児童殺害事件で被害者のお父さんの話を聞くこともできませんでした。私たちには想像もできないほど痛々しく、そして人生において他とない本当に貴重な話を聞くことができました。そして、これからも道後小学校の学校行事に積極的に参加させてもらい、子どもたちとの交流を計っていきたいと思います。

守るんジャーとして、児童の安全を守っていくのはもちろんですが、児童との下校・交流を楽しみながら、私たち自身も一人の人間として大きく成長していきたいと思っています。

この場をお借りして、私たちが受け入れてくださった道後小学校をはじめ、様々な面でサポートをいただいています。愛媛県警・松山東署・松山市役所・PTA連合会・オヤジの会など、私たち守るんジャーに関わっていただいている全ての方々に感謝申し上げます。そして、これからも『愛媛大学子ども守り隊/守るんジャー』をよろしくお願ひ致します。

表紙作品について

「沙羅雙樹」



作者 菊川 國夫 (昭三三卒)

同窓会報の題字の筆者の作品である。会報表紙に書作品を取り上げるのは初めてではないかと思う。奥定会長の発案である。「沙羅雙樹」平家物語の冒頭にあるため、人口に膾炙されている語である。いつの頃からか、私はこの四字熟語の造形に心惹かれ、草書体で作品にしてみたいと願っていた。平成二〇年一月、東京六本木の国立新美術館で開催される第56回独立書展に出品しようとした。昨年の初夏から制作を始めた。約四か月の苦戦の末出品に漕ぎ着けたものである。諸行無常、盛者必衰などという仏教観の表現は作者には毛頭ないのだが、そういう思いを込めて鑑賞して下さった人がいたのは望外の幸せといつておこつ。和青墨と古松煙、中国宣紙が私を後押ししてくれた。

略 歴

昭33 愛媛大学教育学部卒業
平66 松山東高等学校退職
平13 愛媛大学教育学部定年退官

現 在

(財)独立書人団審査会員
(財)毎日書道会会員
愛媛書芸文化協会同人・運営委員など

〒794-0054 今治市北日吉町 二六(一六)

職場だより

自立でできる支援を



附属特別支援
学校教諭
小玉 善民
(四十六年卒)

昭和四十二年、特殊学級として誕生した附属特別支援学校（養護学校）は、昭和五十一年高等部卒業を一期生として平成十九年度三十二期生で合計二八一名の卒業生を世に送り出してきた。その主な進路は施設・作業所で一六四名となる。その次に多いのが、企業への就職で九六名が今日まで継続雇用となっている。企業就労では一般の方と同等に仕事に従事し、高い評価を受けている者も少なくない。特に作業の正確さ、継続力は企業にとってなくてはならない存在として信頼を得ている。また、作業量は十分ではないが、持ち前の明るさと、礼儀正しさを会社のアイドル的存在として大切にされている卒業生もいる。



用が創出するのだが、納付金（一人あたり五万円）で済まず企業が、全体の五十六・六％となっている。（厚生労働省調査二〇〇六、六）障害者雇用が法的に義務づけられた一九七六年以来、法定雇用率は一度も達成されてない。
最近では日雇い派遣、ネットカフェ難民など年収二〇〇万円以下の貧困層の増大が知られているが、「すべて国民は、勤労の権利を有し義務を負う」憲法二七条が現実のものとして機能するように、各方面に力添えをお願いしつつ今日に至っている。
また、約六〇％の卒業生の進路先となっている施設・作業所でも、新たな問題が生じている。それは

二〇〇五年に成立した自立支援法に応益負担が持ち込まれたため、その負担が家族に重くのしかかってきたことである。さらに、施設運営費でも日割計算（報酬単価日額払い方式）になり、「援助金」が減額となり、今までの条件での職員の雇用が困難となり、閉鎖や縮小に追い込まれている作業所もでてきている。
「働く」ことは経済的自立の手段のみならず、社会参加、自己実現など豊かに生きるために保障されるべきものである。故に、今後さらなる制度の改善を切望するところである。
ご承知のように、障害児教育は、従来の盲・聾・養護学校・特殊学級に就学する子どもたちに加え、新たにLD、ADHD、高機能自閉児等もその対象とされ、その支援に本格的に取り組みだしたところである。
新たに約六八万人がその対象となるのだから、当然その指導に当たる教員を確保しなければならぬのだが、全国三万五〇〇〇校小中学校に対して、通級指導教室の担当教員を五年かけて二四二九人しか増員しない、というものであり、十分に対応できる状況ではない。「男子の初等少年院などでは八割がADHDに該当するとも言われている」（悲しみの子どもたち、岡田尊司著、集英社新書）の指摘があるように、配慮や援助が不適切だと、触法少年としてマスコミに登場し、誤解と偏見が生まれ、一層社会を不安に陥れるよう



な状況もある。
本校は、昨年度から附属校園に在籍する特別支援教育対象児への支援に本格的な取り組みを開始し、さらに教育実習生、学生に対しても支援できるような体制を確立していこうとしているところである。
医師は実際に困ったとき、まず恩師のところへ相談に来ると耳にしているが、教師は困ったときどうしているのだろうか。恩師に相談をするということはあまり聞かない。同僚の中で解決したり、一人で悩んでいたりと、未解決のままであったりと、自尊心の中で苦しんでいることが多いのではないかなと思われる。
特別支援教育の時代に入り、現場で適切に対応できる教師を目指し、そのセンター校として、地域にも貢献しようとしている。
私自身定年まぢかで、年金、後高齢者医療と不安に思うが、少なくとも憲法二十五条の生存権は尊重される世の中を守りたいと思う。

790-0943
松山市古川南
三一四一八

放送大学平成二十年度 第二学期入学生募集!

放送大学では、平成二十年度第二学期の学生を募集中です。
放送大学はテレビ等の放送を利用して授業を行う通信制の大学です。
心理学・福祉・経済・歴史・文学・自然科学など、幅広い分野を学べます。
働きながらの大学卒業やキャリアアップ、退職後の生きがい作りなど、様々な目的で幅広い世代、職業の方が学んでいます。
○ 十五歳以上の方なら、一科目から学習する選科履修生・科目履修生として入学できます。
○ 十八歳以上の大学入学資格をお持ちの方なら、無試験で全科履修生として入学でき、四年以上在学して



西岡真由美

(平二卒)

四国中央
松柏小教諭

「わたしのいいところは、かしこ
いところですよ。」

我娘が一年生の一学期、かがや
きコーナー(自分や友達の長所を
紹介する教室背面のコーナー)に
載せていた文章です。

授業参観に行ってくれた母から
このことを聞いたとき、私は正直
気恥ずかしい思いがしました。当
の娘にそう思う理由を尋ねると、
よい姿勢で話が聞ける人は賢いと
先生がいつも言っている。自信
満々の答えが返ってきました。先
生の言葉を正直に受け止める低学
年独特のかわいらしさということ
にしておこうと私なりに解釈しま
した。

最近子どもたちの自尊心が
低くなってきたとよくいわれま
す。自分に自信が持てず、周囲の
ちよつとした言葉や態度に過剰に
反応し、攻撃的な、または、自虐
的な態度をとってしまうといわれ
ています。

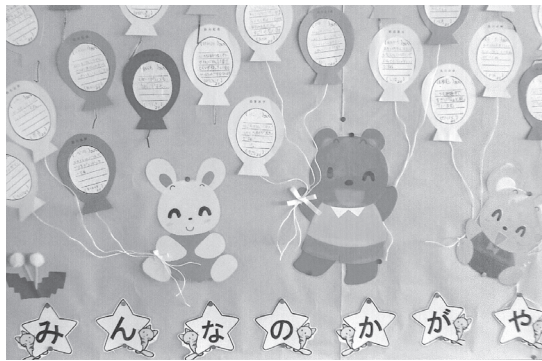
日々子どもたちと接していても
感じるがあります。少し苦手な
な学校行事があると、体調不良を
訴える子がいたり、友達とトラブ

ルになると、自分の思いを十分伝
えることなく、ただ謝ってその場
を取めようとする子がいたり、反
対に手や足が先に出てしまう子が
いたりします。困難に正面から向
かい合って、その結果、うまくい
こうが少々失敗しようが、とりあ
えずぶつかっていいこうとするた
ましが足りなくなってきたとい
なと感じることがあります。

本校でも、この自尊心、自
分ですばらしいと思える気持ち
を育てるために日々取り組んでい
ることがあります。学級の友達の
よさや頑張りを毎日の終わりの会
のかげや発表の時間に賞揚され
ます。そして、学級以外の友達の
かがやきはふれあいカードに書く
と給食の時間に学校放送で紹介さ
れたり、ふれあい委員会の掲示板
に張り出されたりします。自分の
名前が放送された時の子どもたち
の嬉しそうな表情はなんともいえ
ないものがあります。そして、こ
のカードがふれあい委員会によっ
て手元に届けられると、どの子も
食い入るように文章を読んでいます。
(勿論、子どもによってもら
えるカードに多少の差がありま
す。少なかつた子が、次はつらい
思いをしないよう担任が周囲の子
に働きかけるという配慮は必要で
す。)ほめられることは何にもま
して人の心を動かすのだというこ
とを実感する瞬間でもあります。

新採のころ指導されたこと
今も心に残っているものひとつ
に一日に一度はどの子もほめよと

いうのがあります。満遍に声をか
けているつもりでも、時に自分が
声をかけた子どもの名前を記録し
てみると多少の偏りがあります。
自分の指導方法を見直す意味でも
私は時々こうした記録をとりま
す。そして、自分の配慮が行き届
いていなかった子どもの頑張り
新しい視点で見付けようと気にか
けることにしています。



子どもたちが自信を持って行動
できる原動力となる自尊心は、
周りの友達や教師、保護者が一体
となって育てていく必要があると
思います。その場限りのほめ言葉
でなく、頑張りやよさを何度も何
度も、時には言葉をかえながら、
気持ちを含めて伝えなければなら
ないと思うのです。その子の心
根付き、新たな力の源となつたと
き、初めて意味があるのだろうと。
昨年の終わりに転任された先生

が送別の言葉の中で、ご自分のい
いところを話されました。少し照
れながら、まっすぐなところ、ど
んな人でもその人のよさを自分が
見付け好きになれるところであ
ると話されたことがとても印象的
でした。さすが、長年、人権・同
和教育のお仕事に熱心に取り組ん
でこられた方だけあると感じまし
た。

子どもたちのよさをほめると同
時に、我々大人が、自分自身を大
好きである、自分の生き方に誇り
を持つているということ子ども
に示すことは、簡単なようでな
かなかです。私も我が子の前では、
おちようし半分に自画自賛するこ
ともありますが、学校でさて、自
分のことをほめたことがあるかと
聞かれると返事に困ってしまいま
す。でも、これこそが、とても大
切なことではないでしょうか。自
分を好きでない大人が、子ども
の自尊心を育てられるわけがない
のですから。

さて、二年生に進級しても娘は、
自分は賢いと書くつもりで
す。私も負けないよう、明日から
は、学級の子どもの名前の横に自
分の欄もつくろうと思います。そ
して、大きな文字で記録に残して
いきたいと思えます。しっかりと自
尊感情を育ててくださった娘の担
任の先生に感謝しながら。

799-0413 四国中央市中曾根町
(一三六四)

百二十四単位を取得し卒業
すると、学士(教養)を取
得できます。

○一つの分野を体系的に学
びたい方には、「放送大学
エキスパート」を実施して
います。

さらに専門的に学びたい方
には、大学院も併設してい
ます。

資料を無料で差し上げてい
ます。お気軽にお問い合わせ
ください。

資料請求・お問い合わせ先
放送大学愛媛学習センター
☎〇八九九二一八五四四
<http://www.u-air.ac.jp>

募集期間
六月十五日～
八月三十一日

子どもたちと
ともに



新居浜
角野小教諭
鴨田 礼子
(平七卒)

昨年、初めて六年生を担任させていただきました。

初めての卒業生となる子どもたちに初めて出会ったのは六年前。子どもたちが一年生の時。本校に赴任したばかりで、一年生の少人数指導担当になり、不安だった私に「先生〜！」といつも声をかけてくれました。キラキラとしたかわいい笑顔に何度も励まされたのを今でもよく覚えています。

子どもたちが五年生の時に、再会。毎日一緒に過ごす中で、少しずつ子どもたちの考えを知ることができました。

そして、六年生で三度目の出会い。六年三組のスタート。子どもたちには、「最高学年として力いっぱい頑張ろう。みんな笑顔で卒業しようね。」と話をしました。その日から、毎日子どもたちともがむしゃらに進んできました。

何といても忘れられないのはサッカー大会。一月下旬の大会に向けて練習が始まった頃は、関心のある子とない子で気持ちに大きな差があり、バラバラでした。練習試合をしてうまくいかない子どもたちどうしでぶつかってしま

い、話し合うこともよくありました。それでも、毎日毎日、昼休みも放課後も一緒に練習を続けていくうちに、少しずつ子どもたちが変わっていききました。みんなで優勝をめざそうと、何度も作戦を考え直したり、友達に励ましの声かけが聞かれるようになってきたのです。サッカー大会に向けて、一人一人が力いっぱい取り組んでいるのが伝わってきました。そして、大会に向けて、校長先生が練習コーチをしてくださったり、多くの先生方が励ましの声をかけてくださったり、他のクラスのみんなが応援メッセージ入りの横断幕を作ってくれたり、学校のみんなから三組の子どもたちに、たくさんのおしよさをいただきました。当日は、天が味方してくれました。見事三組は優勝！みんな喜びを分かち合いました。子どもたちのひたむきな姿、真剣な姿、仲間を応援する姿に、とても感動しました。子どもたちの頑張りはもちろんですが、たくさんの人に支えられて勝ち取った勝利であることはいまでもありません。子どもたちの感想の中には、サッカー大会を通して、何かに向かって力いっぱい努力することの大切さ、チームワークの大切さ、友達との絆、スポーツの楽しさ、みんなで何かをやり遂げる喜びなど、いろいろなことを学ぶことができたことと書かれてありました。私自身も、子どもたちの姿から多くのことを学びました。三組のみんなが一つになれた忘れられない大切な思い出になりました。

卒業の日、子どもたちの笑顔は輝いていました。巣立っていく子どもたちにまず伝えたのは、感謝の気持ち。「みんなと一緒に、充実した毎日過ごすことができたよ。たくさんのおしよさを与えてくれて本当にありがとう。」二つ目は、



人との出会いを大切にすること。「みんなに出会えて本当に幸せだったよ。これからの出会いを大切にしたいね。」三つ目は、挑戦することの大切さ。「やってみなければ何も始まらない。失敗を恐れず、まずやってみること、それが大切だよ。いろいろなことに挑戦しよう。」子どもたちに、私なりに一生懸命自分の思いを伝えました。その後、クラスのある女の子が

私に手紙をくれました。

「先生へ。……私は、この一年で多くのことを学びました。まず、友達を大切にすることがです。それから、協力すること、何事にもあきらめず一生懸命するということです。……先生のいいところもたくさん見つけました。困っている人がいたら迷わず心配して駆けつけてくれるところ。心配性なところもあるけど。次に、相手の立場に立って話をして気持ちを一緒に考えるところ。そして、何をすることも一生懸命最後までやり通すところです。……中学生になっても、友達をいっぱい作って、いろんなことにチャレンジして、今まで以上に頑張りたいと思います。本当に本当にありがとうございます。」

迷いながらも、悩みながらも、子どもたちと一緒に考え、過ごしてきた日々。その中で、子どもたちが少しでも何かを感じ取ってくれたのであれば、とても嬉しく思います。

私は、子どもたちに支えられ、多くの先生方に支えられて、無事クラスの子どもたちを卒業させることができました。全ての人に感謝の気持ちでいっぱいです。

そして、四月。新しい子どもたちとの出会い。五年生の担任として、新たな一年が始まりました。子どもたちとともに、また一歩ずつ成長していきたいと思えます。

792-0813
新居浜市下泉町
一一一五六一〇

「愛媛大学歴史学研究会
会保管資料」について
愛媛大学埋蔵文化財調査室からの告知

一九五一年に創立され、全学サークルとして活動を続けてきました愛媛大学歴史学研究会は、二〇〇四年三月に在籍会員がすべて卒業し、その歴史に幕を閉じました。

長年にわたる同会の活動は多くの成果を上げ、その一部として、採集された考古資料が部屋に残されておりました。今後、これらの考古資料は、愛媛大学埋蔵文化財調査室に於いて所蔵保管し、公開活用していくこととなりましたので、お知らせいたします。なお、これら資料について、照会あるいは情報のある方は、左記の所までご連絡ください。

記
愛媛大学埋蔵文化財調査室
(吉田)
連絡先…
〇八九一九二七一九一二七

二期一会

このすてきな
出会いを大切に



松山 津和地小教諭
渡部 賢佑
(平一八院卒)

● 別れ、そして出会い

春と言えば、桜。桜と言えば、入学式。春は華やかな季節です。しかし、三月には、子どもたちと一緒に一年間かけて作り上げてきた学級を解散しなければなりません。また、これまで同じ学校や学年部で、ともに子どもたちと向き合ってきた同僚とも、別々の学校や学年部で教育に励むこととなります。ですが、そこでまた新しい出会いがあるため、いつも楽しみです。春はそんな複雑な思いの季節です。

私自身、この春の異動で松山市立津和地小学校に赴任することとなりました。松山市の沖に浮かぶ津和地島。旧中島町の中でも広島県や山口県との境に位置する島です。一周一〇km足らずのこの島では、漁業とみかんや野菜作りが盛んであり、人情にあつい人々が暮らしています。
島で唯一の小学校である本校には、十二人の子どもたちが通って

います。幸いなことに、どの学年にも児童が在籍しており、活気に満ちています。業間や昼休みには、運動場に出てみんなで元気よく遊んでいます。

● 少人数だからこそ

全校児童十二名の本校では、子どもたちは一人一役、いや二役も三役も担っています。朝の水やりや給食の準備といった当番活動の際にも、それぞれの学年に応じた仕事があります。そして、掃除の時間や学校行事の準備の際には、上学年の児童が下学年の力に合わせた仕事を割り振り、子どもたちは自分の仕事を一生懸命に行います。特に、掃除の時間は「自分ができること」を見つけて取り組みます。「誰かがやってくれる」ではなく、「自分たちの学校だから、自分たちできれいにしよう」という思い、その意欲が子どもたちの原動力です。

人数が少ないため、一人ひとりの子どもの負担は大きいと思えます。しかし、子どもたちは仕事を嫌がらず、逆に自分に任せてもらうことで自信をもち、より一層やるうとする姿がみられます。少人数だからこそ、一人ひとりが自分のできることを精一杯に実践しているのだと感じました。
私が担任する三・四年生の複式

の学級には、三年生が一人、四年生が四人の計五人が在籍しています。五人全員が男の子であり、しかも担任までが男であるため、校内でもっともにぎやかな学級です。しかし、「ギャングエイジ」の男の子たちです。内に秘めたパワーは計り知れないものを感じます。

五人であるため、学級会でも全員が必ず自分の意見を出さなければなりません。しかし、出された意見は、その子の考えとして保障され、本人が納得のいくまでとことん議論されます。集団の中では、ときに周りの意見にただ賛同したり、納得できないのに、意見を胸の中に押し込めたりすることがあります。自分の考えをしつかりともち、その上で、相手の考えに耳を傾け、折り合いをつけていく。これからも続けていってほしいと願っています。

● 受け継がれていくもの

先日の昼休みに、子どもたちと運動場でハンドベースボールを行いました。その日も六年生のリーダーシップのもと、短時間でチームを分けるとともに、ベースなどの準備も自分たちで行いました。

一年生から六年生までが一緒に行うため、ゲームを進めていく中でトラブルが起きます。この日

は一年生がなかなか打つことができず、「つまらん」とほつり。「どうするか」と思い、子どもたちの様子を見てみると、すぐに『三振なし』、『打ちやすいところにゆつくりと投げる』といったルールが提案され、賛成されました。一方で、低学年といえども、アウトやセーフといった判定には厳しく、遊びの中で社会性が育っていると感じました。子どもたちは、みんなで楽しく遊ぶためにはどうすればいいかを考え、工夫して遊んでいました。

普段の子どもたち同士の何気ない会話の中にも、上学年が下学年を思いやる言葉があふれています。だからこそ、下学年は上学年を慕い、安心して楽しく学校生活を送ることができています。これは六年生もまた、一年生の頃以上の学年から優しくしてもらった経験があるからこそ、最高学年となった今、同じように、下の学年にもできるのだと思います。このすばらしい関係はこれからも本校で受け継がれていく伝統であると感じました。

● 「二期一会」

私の学級では、毎年学級開きのときに「二期一会」という言葉を子どもたちに贈り、教室にも

掲示しています。そして、「今年、この仲間とこの教室で出会い、ともに色々なことを経験できるのは、とてもすてきな偶然であり、二度と来ない日々だからこそ、友だちを大切に、一日一日をすてきなものにしてほしい」と伝えていきます。

この春、私はこの島にやってきました、十二人の子どもたちと出会いました。このすてきな出会い、そして津和地での日々を大切にしようと思います。



閉校を迎えるにあたって



西宇和 塩成小教諭
佐々木治彦 (平一〇院卒)

早、教師生活六年目になりました。二校目の学校、三年前に辞令をいただいたのが今勤務している学校、私の母校でした。いつか自分の母校で働きたいという夢がありました。こんなにも早く実現するとは思いませんでした。

私が教師を目指したのは小学校五年生の時でした。私はなぜ小学校の教師にこだわったのかを考えた時に、頭にいつも浮かぶのが、五、六年生の時の担任だった先生です。

その先生が六年生の頃に、「私は将来自分の図書館を作るのが夢なんよ。」

と言われ、私を一番に招待することを約束していただいていた。五年前に完成し、招待されて行きました。小さいながらも立派な絵本図書館でした。そこで話された中で印象深かったお話があります。それは、

「治君には治君のスタイルがある。失敗してもいい。一生懸命やりなさい。誰かのまねをしなくていい。治君には治君のいい所がいっぱいあるんだから。」

ということでした。私はその先生にあこがれ、同じような授業がしたいと思いい、うまくいかない自分を責めることがしばしばでした。なんかその話を聞き、背伸びせず、自分らしく、今もっている力を一杯出せばいいんだよと言われているようでした。この言葉を励みに、毎日頑張っています。

私が勤務しています塩成小学校は、佐田岬半島のほぼ中央に位置します。全校児童が十五名と少ないですが、みんな元気に学校に通っています。本校は今年、大きな節目を迎えることになりました。二十年度末をもって閉校し、隣の学校と統合するのです。思えば本校百年記念の年に私は小学校二年生でした。そして、今度は閉校に立ち会うことになるのでは寂しいです。でも、この学校で先生を夢見て、実際に先生として閉校に立ち会うことになり、運命的なものを感じます。がむしろに頑張らなくてはと思えます。

私は母校である塩成小が大好きです。そして、本校には自慢できるところがたくさんあります。そこでこの場を借りて、本校の自慢をいくつかしたいと思います。

まず、何より自慢できるのが木造平屋の校舎です。どこを描いても絵になる校舎です。今時珍しい雨戸を子どもたちが開けるところから一日が始まります。六十メートル以上もある長い廊下を毎日一

生懸命磨きます。外には保護者で作っていただいた木製の風車と昭和初期を彷彿とさせる外観。たまに観光客が校舎を見学に来ます。(でも、廊下が傾き、いろんなところで雨漏りがあり、夏も冬も教室の風通しがよいのがたまにきずですが。)

子どもたちも自慢です。「元氣にあいさつ、笑顔で手伝い」を合い言葉に、毎日元氣なあいさつが響きます。少しでも私の姿が見えると、「佐々木先生おはようございます。」とレーザービームのようなあいさつがいろんなところから飛んできます。また、朝はみんなが草引き、落ち葉掃きなど進んで手伝いをしてくれます。月に一回、縦割り班で草引き競争をするのですが、みんな黙々と草引きをし、何キ口も草を引きます。とても働き者の集団です。先生方も自慢です。人数が少ない



いこともあり、昼休みには全校で遊ぶことが多いのですが、先生も必ず一緒に遊びます。小さな学校なので校務も多く、ブランクもほとんどありません。休み時間に仕事をしたい方がいいのは分かっています。でも、校長先生や用務員さんまでも一緒に遊びます。どの先生も力いっぱい遊ぶので、子どもたちが必ず呼びに来ます。共に仕事をし、共に遊べる教師集団はそんなにはないのではないかと思います。

地域も自慢です。地域に住むほぼ全員が私にとって顔見知りです。自分の母校の学校に行ったらやりにくいというのを聞いたことがありません。でも、私は逆にとってもやりやすいです。みんなが協力的で、私を守っていただいているような気がします。何か子どもたちの気になることがあるとすぐに情報を寄せていただきます。一声掛けるとすぐに集まり、協力していただきます。学校の近くのおばちゃん、

「先生、食べなさいや。」と学校に野菜を届けてくれます。こんなにたくさんいいところがある学校が今年いっぱいだけでなく、なってしまうのは残念です。でも、だからこそ、子どもたちにとってかけがえのない、忘れられない一年にするのが私たちの務めだと思います。限られた時間を一生懸命、そして大切に過ごしたいと思えます。

朋友会館の 利用案内

一、申込み方法
(1)宛先
〒790-8577
松山市文京町三

愛媛大学教育学部
同窓会事務局
TEL 089-927-9383
学務チーム内同窓会係

(2)方法

電話又は、はがき等文章でも可。但し、同大学内の「財務部財務企画課総務・照査チーム」作成の申込書(使用許可書)に必要事項を記入するため連絡方法を明記してください。

(3)申込期間

余裕をもって申込みと確定、少なくとも五日前までに

二、利用資格

大学の教職員及び同窓生

三、利用施設

●会議(大小四室)・会食
●宿泊(ツイン四室、シングル八室、和室八畳、十畳各一室)

四、食事・料理

料理、飲みもの共に可能

五年間を 振り返って



今治 桜井中教諭
白石 裕美
(平一五 学校課程)

この原稿を書くにあたって、初

任者の時に書いた原稿を読み直してみました。その文章の中には、まだ慣れてはいないけれどできることを一生懸命頑張ろうとする気持ち

が書かれていました。教員になって五年が経った今の自分はどうか成長し変わったのか、考えるとなんとも言えない気持ちになってしまいます。

確かに、授業をすること、文書処理をすること等、少しは早くできるようなったような気がします。しかし、精神面でどのように成長したかと言われると、全く変わっていないように感じます。むしろ、頑張ろう、学ぼうという新鮮な気持ちが少ない、ただ何気なく過ごしている日々が多かったような気がします。

桜井中学校に赴任して、一年が経ちました。周りの環境にも恵ま

れ、この一年間はこれまで以上に授業・部活動などで多くのことを学ぶ機会がありました。以前に勤務していた学校はへき地校で、同じ教科の先生がおられず、経験の少ない私にとっては、不安も大きかったのですが、桜井中学校には、同じ教科の先生が二人おられ、質問したり話し合ったりすることができて、とても助かります。

さらに、校内研究授業で道徳の授業研究をさせてもらった時も、学年部の先生やその他多くの先生方がアドバイスをしてくださり、とても勉強になりました。

部活動では、ソフトテニス部女子の顧問になり、練習方法、生徒との接し方を学ばせてもらいま



した。特に、三月末に四日市市で行われた全国大会と一緒に行くことができたことが非常にいい経験になりました。レベルの高いプレーを見たり、生徒の精神的なコンディションのつくり方を学ばせてもらったりしました。

また、この一年間ではたくさんの生徒と関わりました。私は、毎朝、玄関で登校指導をしました。朝練を終えてくる生徒等、元気に登校する生徒、ぎりぎりに眠たそうに登校してくる生徒、いろいろな生徒の様子を見ることができました。始めは、よくわからなかったけれど、毎日、顔を合わせていくと、いろいろな話をしていると、ちよつとした変化が読み取れるようになってきました。しんどいとか疲れたなど感じていても、たくさん

の生徒と話すことで、生徒から元気をもらい、「今日もがんばろう」と思うことができました。

授業では、理科に興味がある生徒、ない生徒と様々です。それでも、自分が考えて、考えて、授業をした時には、その内容や実験に生徒が集中していました。そして、少しでもわかった、という反応がcaえつてきました。だからこそ、「次も……。」と思えました。

部活動では、自分の中学校や高校の経験から、できる限り、一緒に活動するように心がけていました。しばらく行けないと、生徒から「今日、来れますか」と聞かれ、「絶対行かなくてはい」という思いも生まれました。

これまで書いてきたように、桜井中学校一年目は、私にとって、かけがえのない経験や思いを与えてくれました。そして、今、桜井中学校二年目、教員生活六年目がスタートしました。今年度は、今まで経験のない新しいことをやるチャンスに恵まれました。これまでの経験や思いをどれだけ生かし、自分をどのくらい成長させることができるのか……。とにかく、精一杯挑戦してみたいと思います。原稿を書くことで、もう一度「頑張ってみよう」と決意を新たにすることができました。

794-0831 今治市小泉
三二二二二二二



教育学部同窓会
インターネット
開設しています!

メールアドレスは上記

お問い合わせ、会報への寄稿、住所、勤務先変更などの諸連絡にご利用ください。お待ちしております。

dosokai @ ed.ehime-u.ac.jp

教育学部同窓会
ホームページ完成!

URLは上記

支部活動、会合、イベント等のスケジュールに情報をお知らせします。

http://www.ed.ehime-u.ac.jp/~dosokai/

同窓会員同士の交流を深めるために、できれば、掲示板を設ける準備をしています。

今を支える 愛大での学び



(株)エス・ピー・シー
高瀬 雅子
(平一九卒)

社会人となり、ちょうど一年が経とうとしている頃、愛媛大学教育学部の同窓会報の原稿依頼がきました。正直、戸惑いがありました。教育学部の同窓会報という、やはり教育の現場で活躍する教師の言葉が並ぶのではないか、その中で私のような出版社という、一般企業で働く人間の言葉など、場違いなのではないだろうか、と。しかし私が引き受けたのには訳がありました。「今、私が社会人としてここにいるのは、愛大で多くのことを学んだからだ」そう思えたからだと思えます。私は在学中、健康スポーツコースに在籍していました。体育は他に比べ、身体でのコミュニケーションが求められる教科です。教科書には載っていない、コミュニケーションというスキルを学ぶことが、何よりも難しく、何よりも楽しかったと感じていました。生徒の身体の動き、表情、視線……そんな小さな

な変化を見つけることで、指導のきっかけを掴んでいく、そのような意識をもって実習に取り組んでいたことを思い出します。在学中に学んだ、そのコミュニケーションスキルが、今の私にとって最大の強味になっていると実感することが多いのです。毎日、お客様と接する中で、いかに短時間で、より充実したコミュニケーションが図れるかというスキルが求められているからです。

また私は、愛媛大学 Dance ANZに四年間所属しました。今思えば、毎日必死で、夢中でした。家族よりもはるかに多くの時間を共にした友人(友人と言うよりも戦友と言えますが)、親よりも厳しく指導して下さった先生方。他人から見れば、クサイようなセリフや、青春などという言葉がマッチする毎日でした。何か共通の目標に向かって必死にがんばることの難しさを知る毎日。ここで学んだ「スポ魂」というものは、これもまた今の私にとって大きな原動力なのです。

今の私とはというと、県内の出版社に勤務し、女性向け情報誌を担当しています。「同世代の働く女性に向けた情報発信」、それに共感できるからこそ、今の仕事にやりがいを感じているのかもしれない

せん。読者よりも一足早く最新情報を手にすることができると考えれば、とてもラッキーで魅力的な仕事でもあります。社会人になって一年、あつという間でしたが、多くのことを学んだ一年です。

仕事の内容を簡単に説明すれば、情報誌を発行するにあたっての企画営業が主な職務です。営業といっても、ただ単に「売上をあげる」のではなく、『読者が喜ぶ情報』と『クライアントが領く企画』をつなぎ合わせていかなければいけません。そのためにも、たくさんの人との会話の中から、より多くの情報を拾い集めていくのです。これが非常に難しく、かつ面白いのです。世の中には「十人十色」という言葉がありますが、さまざまな考え方にふれる度、実感する言葉です。飲食店経営者の方、エステサロン店長、さらにセレクトショップのオーナー……。

毎日たくさんの人と話していると、たくさんの方に出会い、その度に、自分の頭の中の「固定概念」というフレーズが柔らかく、柔軟なものに変化していくのです。おかげさな言いかもありませんが、日々多くの人に出会う、多くの考え方を知る、多くの可能性を発見する、そして自分がかわっていくことを感じる……。この一年間は、そんな毎日を楽しみながら過ごした一年でした。

仕事を始めて、失敗や挫折は何度も経験しました。営業先のお客様にお叱りを受けたこともありましたが、しかし、私がかんばってこられたのは、十回の失敗よりも一回のありがたみのパワーのおかげかもしれません。たった一言「ありがとう」と言ってもらえるだけで、一生懸命やって良かったと思えるのです。単純だと言われればそれまでですが、この一年間、私を支えてきた言葉なのです。

この仕事の魅力はもう一つ、何よりも「カタチが残る」のです。どんなに忙しい日々が続き、辛いと感じることが多くても、自分が手がけた雑誌が発行された時には感動モノです。自分の原稿が掲載されている、自分の担当のクライアントが載っている。ただそれだけのことが「カタチ」になることで、達成感をより大きなものにしてくれるような気がするのです。私が携わった第一号の雑誌は、実家に持ち帰り、両親に自慢げに手渡しました。さらに私は、今までに発行した雑誌を大切に保管しています。それは将来、私に子供ができた時に「お母さんがしていた仕事だよ」と見せてあげたいのです。それが今の私の些細な楽しみでもあります。



でもあります。仕事に楽しさだけを求めては、マイナス面だけが見えて辛くなってしまう。喜びややりがいは、どこにでもたくさん転がっているものではなく、自分で見つけるのだと気付くのに、今の仕事をしっていて、あまり時間はかかりませんでした。

大学生という多感な時期を、愛媛大学で過ごせたことは、私にとって本当に貴重な時間だったと言えます。何気なく毎日過ごしたキャンパスが懐かしいと思え、思い出すといついつい温かい気持ちになる、愛大。『愛に溢れた愛大』に感謝し、これからこのキャンパスで過ごす後輩たちにも、この愛を感じて過ごして欲しいなと、卒業生として願っています。

教育学部の組織構成

あらゆる知恵の実、ここにあり。

5課程12コースで学ぶ、それぞれの専門性。

生涯学習社会の創造



大学院
教育学研究科
(修士課程) 55名

附属教育実践
総合センター

附属幼稚園
附属小学校
附属中学校
附属特別支援学校

林傳次先生の生涯を貫く実践

「わが教へ子 わがすべて」

林先生頌徳碑を訪ねて



五月晴れの午後、林傳次先生の頌徳碑にお会いしたく、愛媛大学から自動車にて、東温市樋之口にある菅ヶ谷を目指し出発する。

国道十一号線を東温市に向けて走ること約三十分、重信橋の袂に着く。そこを左折、山之内方面に向かうこと約千八百メートル程行く、山の麓に写真のような石の道標が目に入る。その道標に導かれて山道を登ること約四百メートル。道の正面石柱の門の奥に気高く稟として建つ師導鑽仰碑の姿に暫し佇む。折しも、静寂の山野に「ウグイス」が透き通った美しい鳴き声をして、まるで訪ね来る人



を迎えるかのごとく山に木霊していた。師導鑽仰碑文を唱え一礼をした後、その左側面に東を向いて建つ山路一遊先生の歌碑を訪ねる。



「荒莫の野無何有の郷ここに在りひとり吟ひて立ちつあゆみつ」の歌碑の前にて、暫くの間、先輩諸氏から戴いた、山路先生に関する貴重な資料を読み返しながらか、昭和五十年六月一日歌碑建立除幕式に参加された方々の熱い思いにふれる。



その思いに浸りながら、山路先生の歌碑の傍に建立されている林先生顕彰碑「わが教へ子 わがすべて」の頌徳碑を訪ねる。

この頌徳碑であるが、山路先生歌碑除幕式に参加した先生の教え子の間で、「山路先生を人生の師と仰ぎ、先生の心を心として愛媛の教育に尽くされた林傳次先生の顕彰碑建立の話が出された。全員一致で決定され、「林傳次先生顕彰碑建設期成会」を設立し、同窓生に呼びかけ募金を募り、昭和五十六年四月二十四日、林先生頌徳除幕式が行われた。

この頌徳碑の傍に、左記のような立札がある。



愛媛教育道統の確立とその発展を願いこの碑を建てる
林傳次先生遺徳顕彰会
愛媛県重信町樋之口菅ヶ谷
藤田恒重氏の所有地
道のつながりと厚志により碑
ここに建つ

ことは「わが教へ子わがすべて」は
林傳次先生の生涯を貫く実践
文字 主碑 三宅武夫氏
元 愛媛県師範学校教諭
昭和五十六年四月二十五日

何故、山路先生の薫陶を受けた林先生の教え子達がこの頌徳碑建立に至ったのか。

それは、大正から昭和初期にかけて愛媛師範に生きた生徒と、豊かな人間性に満ちた教師との彩なす限りなき人間愛、師弟愛に培われた強い絆と敬慕の念から生まれきたに違いない。それは林傳次先生謝恩会編集の林傳次先生遺稿

集「把翠」の中から感受できる。大正十年三月愛媛教育誌に中山謙一のペンネームで林先生の「わが教へ子わがすべて」が登載された。それが「把翠」に掲載されている。

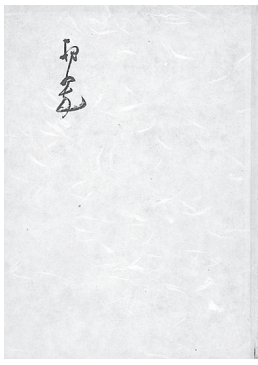
先生は大正五年東京高等師範学校卒業後直ちに愛媛師範学校教諭として赴任した。

着任の挨拶時、先生は山路校長に「私は二年たったらこの学校から出る予定できませんでした。二年間は真剣に働きますから、二年後には文句をおっしゃらないでやめさせて下さい。」と、正直に心の中を言ったそう。すると、「新任早々、そんな注文を出されたのはこれが初めてだ。」と山路校長は天空海潤とも形容されるほどに哄笑されたそう。

小林先生は着任前の心境をこうも述べられている。「尾道から可愛らしい汽船に乗り岸を離れたとき、あ、此時ほど淋しい思いをしたことがあるか。愈、一人ぼっちだと悲しかった。東京を立つ時にも都落ちの悲哀はあった。生まれて始めて島に渡るのだという考えも、この淋しさを濃い色でなすった。島流し、かうした思いが犇々と胸を衝いた。一年、長くて二年の辛抱だ、そしたら新しい希望と新しい抱負を背負って再びこの海を渡ることが出来る。心の中にこう囁いて我と我が心を慰めた。」と。そして着任後も暫く「傍道に力を注ぐな。自分の勉強を怠るなど囁く声が聞こえた。」と。

しかし、「もし校長が山路先生でなかつたら、おそらく二年でさっぱりと退職、かねて考えていた学究生活に入っていたことであろう。学究の道を選ぶか、教育者としての道にとどまるか、私なりに考えもしたのであつたが、結局後の道を選ぶことに決めた。」と。

山路校長先生との一期一会の劇的な出会いが先生のその後の運命を変えた。そして、教えることの愉快、教へ子に対する愛をだんだん感じながら予定の二ヶ年は過ぎ、三年目には入学した学年の世話係となつた。此のクラスから愛の萌芽を、培い、育んでくれた。その間のこと日記として記されている。その一部を紹介してみる。



卯丸

○月○日 今日はどうやら雨が上がった。しかし二日続いた睡眠不足の為に心は重かつた。体も重かつた。朝二時間の授業は立っているのさへ苦しかつた。然し三時間目には、あの自分の組を教える時には、僕ももうすっかり元気になつた。そこにはHの豊かな頬と輝いた瞳があるのではないか。一語もき、漏らすまいと注意を集中してい

るUがあるではないか。時々会心の笑みを漏らすMが居るではないか。それからS、F、K：あ、懐かしい生徒だ。末頼もしい生徒だ。彼らが信頼していてくれる僕は何という幸福だろう。彼等に感謝しなければならぬ。

○月○日 恩師から転任しないかと手紙があつた。先生のお世話を断るのは之で四回目。こんなにして下さるのだから、先生の仰せに従はねばと思うが、いざとなると心が鈍る。新たな生活に入るのだから、矢張り同じ教員の生活を送る位ならばこの地は去るまい。この地には僕の心を惹きつけるものが余りに多い。振り切つて去るには其等の力は余りに強い。温和な気候、明媚な風光、豊かな物資、それから最後にあの可愛い教へ子。

しかし、先生は自らの心境を問ひ直す次のような衝撃的な出来事に遭遇することになつた。それは、

とにかく「教へ子を愛して行こう。そこには自己の生きる途を見出そう。」これが私の到達した心境であつた。そして自ら教へ子を愛していると思つた。今から振り返ると、よくもそんな自惚れを出したものだと思ふ。かしくなるが、最近二人の教へ子の死に際会するまでは本当にそう思つて居た。

二人の教へ子の死。Tは一月十四日に、Mは一月十六日に相前後して此世を去つた。優れた才能に恵まれていながら、二十年前後の短い生涯を送つたのみで此世を捨てる。世に之ほど傷ましい事があるか。Tは天分の豊かな才氣溢れたる青年だつた。其の軽妙闊達な文章は遙かに群を抜いていた。Mは真摯な青年だつた。人並みの健康を恵まれていないにも拘わらず、人並み以上の努力を続けていた。それが彼の死期を早めたのではとさへも思われる。

Mは今この時に夢の様に私の名を呼んだそうだ。せめて呼吸のある間に一度会つてほしかった。彼の父がさう語つたと或る生徒が私に伝えた。それを聞いて私の心は涙に濡れる。Mが私を訪ねて呉れた最後は今年の十月始めの頃だつたと思う。それから後、気にか、つてはいながら一度も見舞つてはやらなかつた。今はの際に私の名を呼ぶ程慕つて呉れた教へ子に対して、私の態度はこの通りだ。「どうだ、少しは目が覚めたか。貴様の愛といふのはそんなものだ。生徒を愛しているなどと口幅つたい事は二度と言ふな。」低い、然し極めて力のある声が囁いた。私の心は微塵に砕かれてしまつた。

杖とも柱とも頼む子に先立たれたTの母を、石手川の堤近くに訪ねたのは、それから二三日過ぎてからだつた。Tが学校を

休んだのは昨年の五月からだ。御宝町の大西にいた頃、訪ねたのがTに会つた最後だ。苦しうな息使ひと、あらはに見えた肋骨とが今も目に浮かぶ。二期には赤十字病院に移つたと聞いた。その内に石手川の堤近くに家を建て、其所に移つたときいた。一度訪ねようと思ひながら、怠惰な私は一日二日と延ばして居た。そして死去の通知を手にしたのである。

Tの母はいふ。「夏休み中のごぞいしました。是非先生にお目にかかりたいと申しまして、無理をして体に障つてはならなしと私が止めますのもき、入れずに、参りましたが、お国へお帰りになつたおあとでしたさうで、お目にか、れず、大変落胆して帰つて来ました。」と。私の心は再び千々に砕かれた。

教へ子の為に自分の全部を投げ捨て、毫も悔いない生活こそ、私の今最も翹望しているものだ。その境地は現在の私の生活とは遙かに距離のあるものである。しかし「我が神わが凡て」と言つたアッシジの聖者セント・フランシスでも直ちに「我が神わが凡て」

の境地に達し得たのではない。彼の四十四年の一生は、不純から純一に、純一から神性に。煩悶から信念に、信念から信仰に。犠牲から歓喜に、歓喜より喜捨に。悪から善に、善から美にまでの精進の一路であつたと言はれる。私も貧しい歩みを続けて行かう。「我が教へ子わが凡て」

私には余り荷が重すぎる様だ。けれどもそれを目ざして私の生活を導いて行きたいと思う。いささかでも其の境地に近づくと事が出来れば私には大きな喜びである。

「教育は人なり」と言われる。まさに、愛媛教育道統への礎となつた愛媛師範教育の原点、そしてそこで学び育つた俊英達の群像が今ここにあるとの思いが熱く胸にこみ上げ、折しも美しく啼く「ウグイス」の声を心に染みこませながら、菅ヶ谷の聖地の中に居た。

祝・叙勲

(平成二十年四月二十九日)

☆瑞宝双光章

教育功勞 宇都宮正男 殿

松山市北井門町九七六一

昭三十五年卒

教育功勞 加藤 通邦 殿

松山市北梅本町八六三一

昭三十五年卒

教育功勞 河野 清巳 殿

喜多郡内子町五十崎甲

昭三十五年卒

一三九七一六

文 芸



川 柳



上田 千鳥
(昭二四)
愛師研)

清流へ森の掙が生きている
上流は下流の悩み分らない
陽が匂う若葉が匂うウォーキング
子供でも描けると思うピカソの絵
補聴器もあの世の音は聞こえない
夢育つモラルが育つ読み聞かせ
ごめんねと言いきっかけが掴めない
肝つ玉の母の辞書には無いもしも
気まぐれな男の気球追う未練
確定キー押せぬ男の自己嫌悪
アメリカ発世界を巡る不況風

— * — * —

母の死亡で暮しから笑いが消えていた頃、「川柳にぎだづ」講師の関谷省三先生から例会へ誘いがあつた。平成八年一月、講師の温かい助言で初めて川柳を作つた。

「旅支度あれもこれもと夢を詰め」「選挙戦政策よりも笑顔まき」平成十二年、「川柳まつやま」吟社の新会員となり塩見草映会長へ自作の川柳五句を送つた。二句が柳誌へ、次号は三句掲載され励みになった。特に、太字で印刷されたときは喜びも倍になった。

平成十五年同人に推挙された。「自選五句ひとりよがりの句を惡れ」と、ベテラン花岡鬼外は詠んでいる。同人吟は選者がいないので自選力が必要であり、第三者の目になって推敲を重ねる。これが難しい。上五中七下五と見直すが下五の止めが甘くなつてくる。

川柳大会に出席すると、着想が良く表現力がふさわしい秀吟が多く、会場に笑い声も起こる。私は自作の未熟さを反省する。

句の巧拙はさておき、今では生きがいの一つとなった作句を続けていきたいと思つている。

790-0853 松山市上市
一―一―一九

俳 画

伍健師の色紙に

魅せられて

仙波 弘子
(昭三三卒)

「考えを直せばふつと出る笑い」この川柳は、愛媛川柳の基盤を築かれた前田伍健師の代表句である。師は、川柳はもとより南画の達人でもあり、句と画が調和し、

飄々とした温みのある作品を数多く残されている。職を退き、念願の川柳を始めた私は伍健師の色紙に魅せられ、俳画教室にも足を向けた。

俳画教室の大倉可貴先生は常に「一日一墨」を説かれるが、それさえ実行できない。そして先生の熱のこもつたご指導に比べられないことを恥じている。

しかし、いつかはきつと、両先生から花丸をいただく作品を創りたいと願っている。

791-0244 松山市水町九一九



短 歌



森貞 和雄
(昭二五青師)

さながらに雪積むごとく群れて咲くユキヤナギとは誠よき名ぞ
ナデシコを「撫子」と書きラベル立て今日はよき日と箱に種まく
折り込め伐りし庭木の切り口に庭師は置きぬ塩ひとつまみ

「ああ今日も生きてゐるな」と顔洗ひ鏡に向ひよしと声出す

唐突にオカリナ吹きてみたくなる冬の夜更けの深き静寂

母と子が「どんぐりころころ」唄ひつつ団栗拾ふクヌギ林に

興居島を絵の中心に描きたる「瀬戸早春」の色のはやか

離れ住む子より届きし護符つけて術後の散歩の足取り軽し

早春賦の歌詞さながらの昼さがりひとりさまざまふ故里の道

おだやかに老ひゆく身ならば欲言
はぬ今日も昨日の吾でありたし

☎ 791-0245 松山市南梅本町
八八七一一二

老いのドラマ



北岡精次郎
(昭一八卒)

年賀祝ぎ氏人集ふ境内に餅投ぐ中
に米寿の吾も

父の日に吾娘より届きし万年筆短
歌認む使い初めに

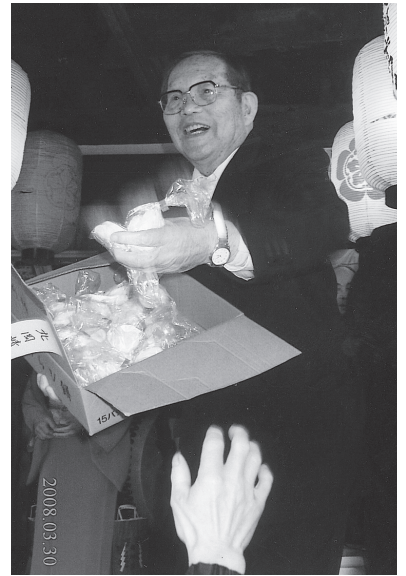
米寿祝ぎカーデイガンが届きたり
嫁のぬくもりふれる今宵は

孫の婚愛媛の祖父母ありがとう無
償の愛をと吾を泣かせる

新調の靴をペアで求めたり氏神境
内巡りて帰る

吾米寿妻も傘寿を越したりき老の
坂道支え登らむ

富郷のダムより高き「もどり嶽」



☆ 短歌とは日々
の営みの中で、
如何に感動を受
け心を燃やし、
如何に三十一文
字に美しく心地
よくまとめあげ
るかであると思
う。

ケアの友らと紅葉楽しむ

かつて妻勤めし城師小埋もるる富
郷ダムは青く水満つ

ケア終えし老いを乗せたる送迎車
集落の中曲りて抜ける

早朝の広き境内静まりて宮司が落
葉集めるるなり (宮司は友)

原爆を許すまじと北小の児ら広島
のロケに加わる (夕風の街桜の国)

通学路高笑いせる若きらにまじり
て吾は投函に行く

老い吾れの孤独感癒せと言ふ如く
朝より鳥はさわやかに啼く

富郷のダムより高き「もどり嶽」

年老いてくると自ら行動範囲は
狭められる。しかし感動の場面は
居ながらにしていくらでもあつて
ありがたい。家族の絆。ケアのス
タッフ・友人・地域の人・医師な
どの出会い。自然のうつりかわり
テレビの映像など。

これらの感動を表現する最も適
切なことは、美しいことばは、
とことば探しの苦労もまた楽し
い。

このように作歌していくうち、
自分ひとりで生きているのではな
い多くの人や物や事に支えられて
いるんだと改めて痛感、感謝の気
持ちがしきりに湧いてくる。泣か
されたり笑わされたり驚かされた
り私一人のドラマの展開である。

☎ 799-0711 四国中央市土居町土居
二二二一一二

俳 画

詳しく見る

西島 節子
(昭三四卒)

退職後、時間と心にゆとりがで
き、現職中にしたくてもできな
かった事々をやり始めた一つに、
俳画がある。俳句のそばに添え
る絵と簡単に考えていたが、習
えば習うほど奥深く、神秘を感
じる領域だった。墨の濃淡が醸し
出す何段階ものモノトーンが美し

い。お手本を描いて下さる大倉可
貴先生の二筆一筆に驚嘆し心すっ
きり洗われる。

「絵が固くなるから、詳しく描
かないで、牡丹なら牡丹らしく、
特徴を捉えて描きなさい。」と教
えて下さる。さて自分が描き始め
ると、花や葉をじっくり見ている
事に気づかされる。詳しく知ら
ないから省略して勢よく描くこ
とができない。えっ！と思つて葉
を見ると互生だったりする。

ほんやりしないで、物事をしつ
かり見る眼を養いたいと思つのも
俳画のお蔭であるかも知れない。

☎ 791-8011 松山市吉藤
二二二一一二

花蕊の降りつぐ

午後の小宇宙



漢詩



伊予長浜八景(二)



豊嶋 睦
(昭二三師本)

3 伊予灘夕陽

前詩でみた「長浜八勝伝」のうち(海辺釣網)の項には、長浜から見る伊予灘の眺めを「絵がけるごとくなり」絵をかいたようだ」と紹介している。

(長浜の)西北は積水渺茫として千里の緑波平なり。頭を廻らせば防長の島山遠近に連り、夕陽の彩雲は錦のごとし。又、雪の朝は白砂に麗しく、沖津船は真帆かた帆、おのがさまま走行風情、殊に春節は海つら長閑に霞棚引き……その景色さらに絵がけるごとくなり。是、此地、最上の眺望也。

こゝに、「絵がけるごとくなり」との眺望は、暮れなずむ西北の海に沈まんとする夕陽の、雲と波に映ゆる美しい光景をいつたのである。それは、少年の頃、私が、はるかなる海に、まさに沈まんとする夕陽を、われを忘れて眺めたその景色と何ら変わらぬと思うのだが、さてどうであろう。

思うに、夕陽は、時と所を越えて自然と一体となる妙境へと誘ってくれるものではないだろうか。殊に、長浜の汀で見るそれは、遠く防長の彼方から、長浜にかけて、雲に彩りをそえつ、波頭に光を点滅させ、幽遠な境地へと私たちを誘ってくれているのである。そこには、俗世間から隔絶された物我一如の別世界があるといつてもよいであろう。

かくて、長浜は、人の心を癒してくる日本有数の夕陽の町なのである。



別世界の伊予灘夕陽

伊予灘夕陽

積水渺茫千里青
白鷗戯浪泛滄溟
適佳明滅夕陽景
忘語忘言立晚汀

【仄起・青韻】

- 積水―たくさん集った水、海をいう。
- 渺茫―広くて果てしないさま。
- 滄溟―あおうなばら。
- 忘語忘言―(夕陽の美しさに言う言葉すら失った)茫然自失のさま。
- 晚汀―夕暮れの汀。

4 名勝長浜開閉橋

かつての長浜、といつても戦前のことだが、その頃の長浜には、

肱川上流域から筏を組んで流してきた木材を加工する製材業、そしてその製材された材木を使つての造船業等々が発達していた。しかも、造られたその船には、肱川の川舟が運んできた各地の産物を

名勝長浜開閉橋

伊予長浜雲水郷
名橋開閉冠扶桑
警声一笛舟過去
綺靡錦帆何可忘

【仄起・陽韻】

- 雲水郷―水辺の美しい里、こゝでは長浜をいう。
- 冠扶桑―日本一ということ。扶桑は、日の昇る東方の国、つまり日本をさす。



バスキュール式長浜大橋

738-0025

広島県廿日市市平良

一(二一)一九



今、教育に思うこと

激動の教育の動向に思う



小野植元幸
(昭二九卒)

教育に関する報道が毎日のように新聞やテレビで取り上げられ、文科省では、教育再生会議をたちあげ、教育に関する諸問題に対応、対策を検討している。その一つが全国学力調査を小五・中三に実施し内容を分析し今後の教育指針に貧すると発表した。

「ゆとり教育」のために週休五日制を導入し、指導時数や指導内容の削減をはかったが、学力低下が甚で囁やかれ、どの程度、指導内容が定着しているかを把握するため実施。結果は、ほぼ定着していると発表したが、文科省は「総合学習」を見直し、時数や指導内容を検討しているが、現場の教師は戸惑っているのではないか。

「団塊世代」の大量退職時代に

突入するため、ベテラン教員が少なくなり、指導力低下の防止のために、退職した教師の再雇用や社会人経験者の採用を計画。全国で教職員定数約千二百人、非常勤講師を約七千人を配置する計画を検討していることは喜ばしいことである。教員経験者は「即戦力」になりベテラン教員のノウハウを若年者に伝えるメリットもある。

私も退職して、非常勤講師として二年間新採教員の育成にかかわった。二人とも女性で、採用も一発、優秀な教師であった。一年目は私の故郷で十三年間勤めた学校で高齢者は、若年教員の時の保護者、児童の保護者は教え子が多く、地域の情勢把握に容易で新採教員育成に役立った。

現場での教育は、生かすも殺すも指導教員の指導にかかっていることを自覚し、日々の指導・児童の対応に心血を注いだ。

教材研究、指導のあり方、生徒指導の対応、文書の処理、学校教育

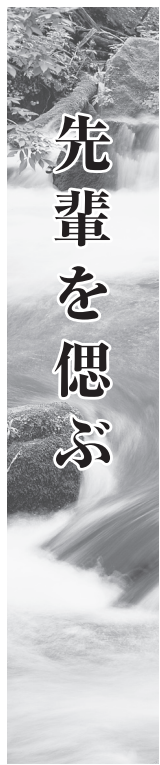
育法の基本等指導した。管理職の考えを聞き、現場教師との連絡調整に配慮した。二人共、児童、現場の教師、保護者に信頼され、すばらしい教師として育った。実績をあげ、本人の希望する任地へ転任したので、指導したかいがあった自己満足した。

平成の大合併で県内市町村は二十になった。県内の小学校は二〇〇七年度（県教委調べ）小学校三五六校、そのうち複式学級のある中学校一〇七校あり三〇パーセント児童数八万五千九百七十八人。戦後最多の児童数五十八年度二十四万八千四百六十七人。学校数五百三十六校。現在は、統廃合百八十校減児童は三分の一に激減。

年々少子化で児童減少のため、県下の市町も統廃合の動きがあり大洲市では、小学校二十八校を十一校。わが内子町も、現在複式六校のため十一校を五校、中学校四校を三校。久万町も四中学校を一校に統廃合の計画が立てられている。行政側も、将来生きぬく力に視点をあて、児童生徒の立場に立って考えている。

二〇〇六年病気休職は、公立小中学校の教職員七千六百五十五人と前年より六百三十六人増えており気がかりである。現職の先生方は、まず「健康第一」に自己管理し、自己研鑽に努め児童生徒のために、ゆれ動く日本。教育は、百年の大計を持ち、将来を背負う子供達のために活躍を祈る。

791-3351 喜多郡内子町五百木 (一五四)



先輩を偲ぶ

独学で教師を目指した
森岡数栄先生百九年の足跡(八)



上甲 修
(昭二九卒)

師範学校を目指して

国語と漢文、法制と経済の合格証明書を受け取ったとき、森岡青年は大きな喜びと同時に、努力すれば教師になれる、という自信がついた。

しかし、教員の資格を取るためには、次のような受験科目がまだ多く残っていた。これを考えると本当に気が遠くなった。

- 修身 倫理学 哲学
- 教育 教育学 教授法 管理法
- 地理 日本地理 外国地理
- 歴史 日本史 東洋史 西洋史
- 理科 物理 化学 博物
- 数学 算数 代数 幾何 三角
- 図画・手工・音楽・体操の四教科は理論と実技

これだけの科目全部を検定試験で取らなければ教員になれない、と思うと自信がゆらいで今度は進む方向を変えたほうが良いので

は、と森岡青年は迷うようになった。

何日か、ふさぎこんでいろいろ考えていたが、外によい方法も見当たらず、この道を進む以外にないと心に決めた。

森岡青年は大正九年から十年にかけて県内はもちろん広島師範学校まで出向いて受験し、主要学科の検定試験にはほとんど合格した。

しかし、技能教科の理論はともかく実技には全く自信がないので、検定試験で愛媛師範学校へ行ったとき、それまでの合格証明書を全部持って師範学校の先生と相談したのです。するとその先生は、

「あなたは中学校を卒業した人と同等以上の学力を持っている。それで師範学校の二部を受験する資格がある。二部に入ったら一年で卒業でき、小学校の正教員になれる。師範学校は授業料を納めなくていいし、補助もあるから親御さんの負担は少なくて済みます。」

このことを森岡青年は、家に帰って両親に伝えた。父親は「一年で卒業できるなら受験してみるか。」と承諾してくれたのです。

受験してもよい、と父親に言われた森岡青年は、とても明るい気持ちになった。しかし入学試験は検定試験と違い、全教科を一度に受けなければならぬので、そんな難しいことが果たして出来るのか、と不安になった。しかし、出来るにしても出来ないにしても、やるしかないと思ひ、もう要らないと仕舞い込んでいた教科書や参考書を引っ張り出して再び勉強を始めたのです。

(注)師範学校の第一部と第二部の要求に即応する教員養成のため、明治九年九月松山市二番町に開校。明治四十一年四月本科第二部を設立。

師範学校の本科一部に入学するのは小学校の高等科を卒業した者、本科二部に入学するのは中学校(旧制)を卒業した者かそれと同年以上の学力を有する者となっていた。

大正の末期まで本科一部は四年、本科二部は一年で卒業であった。昭和の初め本科一部の修業年限は五年、本科二部は二年に延長になる。十数年後、一部は六年、二部は三年に延び、更に戦後の学制改革で愛媛大学の教育学部へとつながる。

791-1134

松山市恵原町甲

六五三二二



同期会

愛師22年

関東同期会



谷口 敬

(昭二二卒)

平成十九年十二月十四日(金)、上野駅近くの「鮎忠」東上野店に、井原茂幸・高橋立身・藤本正義・水野允陽・山之内登・谷口敬に加えて加藤氏夫人(愛師女子23卒)・玉田夫人(東京一師女子24卒)の八名の顔が揃った。

先ずはお互い傘寿を過ぎた今年も出席できたことを喜び合い、和やかで楽しいひと時を過ごすことになった。

谷口より幹事武田敏文兄が脱腸手術直後のため欠席の無念さを伝えると共に、彼心づかいによる松山同期会の集合写真コピーを配布。

更に、谷口が去る十月二十二日開催の第22回松山同期会に、七年ぶり帰郷で出席した席の様子も報告し、以後への話題を提供した。年と共に飲んだり食べたりの衰

えは明らかだが、おしゃべりにはまだまだ勢いがある。体調不良など欠席九人の返信ハガキも回覧しながら、順不同の近況報告が賑やかに展開された。

全国組織の「全陶展」会員として活動、作品制作に励んでいる井原兄、アジア音楽文化振興協会理事長として日韓友好にも尽力している水野兄、賞状・看板等の揮毫に特技を発揮している藤本兄・怪我を克服してテニス大会出場の加藤女史、主人亡きあと未だに毎月菊園へ帰郷を続ける玉田女史などなど……。敬服したり、励まされたり……………。

趣味・特技の継続や健康・体調の率直な披露は、お互いの貴重な参考となり、前向きに、意欲的に生きよう!!との思いを再確認する機会ともなった。

予定の二時間半はまたたく間に過

ぎ、写真撮影のあと来年も十二月十一日(木)の再会を申し合わせ午後二時散会した。

時間の許す五人は近くの喫茶店に立寄り、更におしゃべりを継続同期会の余韻を楽しみ、別れを惜しんだ。

そして、来年は一人でも多くの友が集まれることを願いながら家路についた次第である。

270-1158

千葉県我孫子市船戸

一一九一三三



会報の送料納付について

平成二十年二月号でもお知らせしましたように、会報の個人宛発送は、送料を各自で負担していただくことになっております。

出費多端の折柄恐縮ですが、未納の方は、左記要領で納付方お願い申し上げます。

記

①一年間五〇〇円で、二年間分ずつ収めるようになっていきます。

②二年ごとの更新は、煩さなので、何年間かを、まとめられる方もあります。

納付期限 毎年三月三十日までとし、二年毎に更新する。

送金方法 郵便為替・現金書留・郵便振替で

振替口座番号

〇一六四〇一七二七五四

送り先 七九〇一八五七七

松山市文京町三

愛媛大学教育学部同窓会

領収書は、振替用紙をもって、かえさせていただきます。

第11回愛媛大学教育学部同窓会懇親会のご案内

(愛媛師範・愛媛県女子師範・愛媛青年師範・愛大教育)

同窓会につきましてはいつも大変ご支援ご後援をいただきまして深謝しています。

さて今般、私達の同窓会では、お陰様で第11回目の懇親会を開催することとなりました。

長い歴史を有する私達の同窓会も、以前は旧制師範時代は男子、女子、青師の各部に別れての交流にとどまり、皆が一堂に会することや、新制愛大教育学部との交流の機会も極めて少ないことでしたが、各同窓生を一つの大きな輪とした「愛媛大学教育学部同窓会」を組織し、その懇親会を開催して早くも11回を数えるまでに発展して参りました。これからも、この大きな輪の交流親睦を図ることを通して、愛媛大学教育学部同窓会が、ますます進化発展していくための一助になることを願っています。

上記趣旨にご賛同いただきまして、下記要領にて開催いたしますので、ご多用中誠に恐れ入りますが、万障お繰り合わせいただき是非ご出席下さいますようお願いし、ご案内申しあげます。

記

日 時 平成20年8月17日(日) 正午より午後3時まで

場 所 愛媛県県民文化会館

〒790-0843 松山市道後町2-5-1

TEL: 089-923-5111

会 費 5,000円

※ 懇親会では、今若手落語家のホープとして、東京を中心に大活躍しています落語真打の古今亭菊志ん(本名:山口直樹愛大教育平成6年卒)さんの口演があります。

申 込 先 同窓会本部又は郡市支部長及びその他の世話人の所に会員券がありますので購入して下さい。

同窓会本部: 〒790-8577

松山市文京町3番

TEL: 089-927-9383

E-Mail: dosokai@ed.ehime-u.ac.jp

第一次締切 7月18日(金)

(会場設営その他の準備計画の都合上とりあえずそうさせていただきます。)

以上

会費は同封振替用紙でご送金ください。それぞれを領収書に代えさせていただきます。又、追加枚数がございましたらご通知いただき次第お送り致します。

振替口座番号: 0-640-7-2754

送り先: 〒790-8577 松山市文京町三

愛媛大学教育学部同窓会

平成20年6月20日

愛媛大学教育学部同窓会

懇親会の思い出

懇親会に参加して



重岡 愛子
(昭三青師卒)

初めて懇親会に参加したのは第七回、即ち平成十二年八月でした。「前回楽しかったからチケットは買っておく」とポニーより連絡があり、もう一人の友Kさんと誘い合せて出かけました。大ホールへ三百名ばかりのお歴々が集まるのですからいささか緊張気味です。でも誘ってくれた仲間たちの顔を見るや否や、安心と喜びに早変わり。いそ／＼指定席に着いた感動は今もあり／＼蘇ります。この第七回では私たちの仲間は七人でした。

以後毎回参加するようになり、今年はその当たり年であることを会報百五号で確認しております。ところがある日Mちゃんより「何か一筆」の連絡を受け、私なんかでは意に添えないと躊躇しましたが、長年お世話になり楽しんでますから已むを得ません。四人に代って恥をかくことに意を決した次第でございます。卒業後約六十年、退職して四半世紀、何とか元気でこうした機会



に出合えるのですから、ミニクラス会という意味で楽しもうと励まし合い再会を約束して別れるのです。ところで前回(第十回)では驚きました。21テーブルの中の③が私たちの席です。脇とはいえずテーブルの真下です。驚きながらも直ぐ納得し着席しました。女子部の最高齢ですから当然です。③のテーブルに同期生が四人も(?)楽しんでることがこの記事を書くことになったのでしょう。

過去に数回私たち二十三年卒は男子部と合同の会があり、女子部だけで道後姫塚つかさビューホテルで一泊したのは平成十一年三月でした。それまで一人も他界してないことを喜び合ったのですが、ここ数年間はつ／＼帰らぬ旅に立ちはじめました。そのことが私たち四人の絆を一層深めるのだと思います。



会場の一隅でひそ／＼がやく／＼話しかけていたら「Sさんでしょう名簿を見ていて……」と、ある研究会で一度出合ったきりの方が寄って来てくれたり、仲間のAちゃんが親しく話しかけている男性が、かつて同校で勤務していたという。名札を見れば私の実弟の同級生であつたりして「これ正に同窓会ならでは——」と感動のひとつときです。

会報百五号の会長奥定氏の、新しい年を迎えるにあたって、を拝読し「問」の意義をあらためて考え見つめたい。その意味に於いてもこの会に参加することは何よりの機会と思いを新たにしていま

思えば昭和二十三年の卒業ということは、あの思まわしい太平洋戦争の終る四か月前の入学で全寮制。先輩諸兄姉は軍隊やら学徒動員で軍需工場やらへ赴き校(寮)内は残留生と新入生だけでした。防空壕の中で手を取り合い、松山空襲の夜は焼夷弾の下で校舎を守り、大阪方面とやらの疎開児童が朝夕必勝の歌を歌っているのを見たりでした。今もあり／＼と眼裏に耳朶に残っているのは八月六日八時十五分、学校園へ出ていました。「ピカッ」「ドーン」です。無気味な光と同時に乾の空にどす黒い雲の異様さです。八月十五日の終戦の日は僅か一週間の夏休みで帰省中でした。

戦中から戦後へかけて在学の三年間は文字通り激動の時代でした。現在の愛大の敷地が当時は城北練兵場跡で、文化的施設等全く無い中に青師の小屋が建ち、そこで卒業の試験勉強に打ち込み



(?)、はたまに休暇を利用して男師・女師・青師合同で大学設立運動等、複雑多彩で思い出は限りありません。

新採赴任は義務教育が六・三制に改革された二年目で新制中学の草分け時代でした。認定講習を受けたり先輩方に学んだり無我夢中の二十代、教科内容の改定やら勤務評定の三十代、一人前の教師になれたかどうか疑問のまま三十余年の暮を閉じました。

そして前述の通り退職して四半世紀、後期高齢者になるまで存(ながら)えることができています。この「懇親会」を機に旧交をあたため、生きている喜びを分かち合わずにはいられません。

先程来の風雨に桜の花も散ってしまうのであろう今宵、逝く春を惜しみながら拙文をしたためました。今年の第十一回の懇親会にも元気で参加できるように念じながら……。

喜多郡内子町内子
791-3301
(三二五六)

会報発送について

県外にお住まいの同窓生の方で、会報が届かない方がいらつしやいましたら、愛媛大学教育学部同窓会事務局までご連絡ください。

また、県内の方でしたら、次のような方法をとってください。

- 居住地の小学校の愛大教育学部同窓会係の先生に次の三つのことを連絡してください。
- ① 愛媛大学教育学部同窓会会員であるから会報を配布してほしい。
- ② 住所
- ③ 氏名

※届けられた名簿で、係の先生がお世話していただきます。

「愛媛大学サテライト オフィス」に注目

愛媛大学は、大学と遠隔にある所に、大学の機能の一部を持っているオフィスを設置しています。

愛媛県では、四国中央市と平成十八年二月に、地域産業、環境などの分野で相互に協力し、活力ある地域の発展と人材育成を目的として連携協定を締結しています。同様に、今治市では今治市役所産業振興部産業情報課に、また、宇和島市では地域振興課にサテライトオフィスが設けられています。県外では東京都に、外国では、カトマンズにもあります。

今後、学校教育活動の一環として、この「サテライトオフィス」の連携、活用を教育計画に組み込んでみてはいかがでしょうか。また、このオフィスを同窓生の連絡情報の発信元として、集いのよりどころとして活用すべく、関係する地域の「サテライトオフィス」と連絡を取られ、積極的な働きかけをされてはいかがでしょうか。ここに「サテライトオフィス」の活動例として、今治の活動内容を紹介します。

愛媛大学サテライト・いまばり

■地域と愛媛大学をつなぐ総合窓口

愛媛大学サテライト・いまばりは、今治地域における愛媛大学の地域連携の総合窓口です。

市民の皆様方や企業の方々が新しい事業や仕事を始めようとする時、あるいは様々な問題にぶつかって行き詰まって誰かに相談したい、誰かに支援を求めたいといった時に、愛媛大学が持っている知識や技術などを活用してはいかがでしょうか。

愛媛大学サテライト・いまばりでは、愛媛大学とのパートナーシップの橋渡しを行います。

- サテライト・テクノ事業（企業相談）
- サテライト・キャンパス事業（公開講座）
- サテライト・イベント事業

愛媛大学サテライト・いまばり

〒794-0042 今治市旭町二丁目3番5号（今治地域地場産業振興センター内）

（担当）今治市役所 産業振興部 産業情報課

TEL 0898-36-1547 FAX 0898-32-3727

E-mail : sangyou@imabari-city.jp

サテライト・テクノ事業（企業相談）

愛媛大学サテライト・いまばりは、市内の企業と愛媛大学とが連携するための、コーディネート の場です。

新たな事業展開を図る上で、愛媛大学の知識・技術・情報・人材を活用してみてはいかがでしょうか。

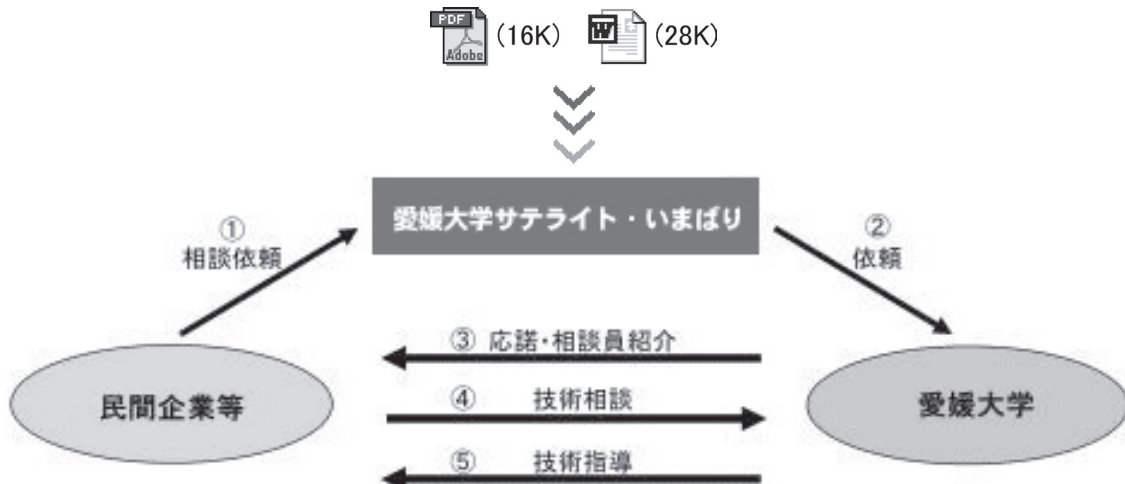
企業等で現実に解決を迫られている問題などについて技術指導や技術相談に応じます。

相談内容については秘密を厳守します。お気軽にご相談ください。

① 愛媛大学サテライト・いまばりへ申込

- 「サテライト・テクノ事業申込書（科学技術相談申込書）」に必要事項を記入のうえ、お申し込みください。
- 郵送、持参によりお申し込みください。
- 申込先：愛媛大学サテライト・いまばり

サテライト・テクノ事業申込書（科学技術相談申込書）



平成20年度
支 部 長 会 報 告

1. 日 時 平成20年5月31日（土） 10：30～14：00

2. 場 所 朋友会館（松山市道後樋又）2F大会議室

3. 日 程 (1) 開会 あいさつ 会長・学部長

(2) 議長選出

(3) 議事

ア 役員改選に関する件

★ 退任役員表彰

★ 新旧役員あいさつ

イ 平成19年度行事報告

ウ 平成19年度決算報告・監査報告

エ 平成20年度行事計画

オ 平成20年度予算案審議

カ 第11回同窓会懇親会について

キ 支部活動と助成金について

ク その他事務連絡（内規に関する事項・会報発送・会館利用・名簿等）

(4) 閉会 あいさつ 副会長



4. 主な話し合い事項

(1) 第11回懇親会について

開催日時及び場所は、平成20年8月17日（日）、愛媛県県民文化会館とすることを確認した。また、実り多い懇親会にするために、懇親会案内状の内容検討、その配布方法、申し込み及びとりまとめ方法等について協議した。

(2) 支部活動の活性化について

昨年11月に、県下全支部長さんを中心に、「支部活動について」のアンケート調査をした。その調査結果を前もって各支部に送付しており、この会でその資料をもとに、支部活動を活性化するために今後どうあるべきかについて話し合いをした。

(3) 「支部活動特別助成金」について

支部活動をより活性化するための具体的な方策として、上記にある「支部活動特別助成金」を設置してはどうかについて、本部より問題提起があった。その為の資料として、「支部活動特別助成金交付要綱」（原案）と「申請手続き」（案）を提示し、会議に諮った。

以上

平成 20 年度 行 事 計 画

4月下旬	平成19年度会計監査	平成20年4月14日 監査実施
5. 10 (土)	第1回理事会	平成19年度行事、決算報告 平成20年度行事計画及び予算審議 役員改選案について審議
5. 31 (土)	支部長会	平成20年度本部役員改選 平成19年度行事、決算報告 平成20年度行事計画及び予算審議
6. 9 (月)	第1回編集委員会	会報106号 校正
7. 1 (火)	会報106号発行	9,200部
8. 2 (土)	第2回理事会	第11回懇親会、前期同窓会活動と後期活動について
8. 17 (日)	第11回同窓会懇親会	第11回懇親会 (於：県民文化会館〈真珠の間〉)
8. 30 (土)	第1回常任理事会	同窓会懇親会反省、後期活動について
1. 10 (土)	第3回理事会	行事の反省と新年度諸計画について
1. 13 (火)	第2回編集委員会	会報107号 校正
2. 2 (月)	会報107号発行	9,300部
2. 20 (金)	第2回常任理事会	20年度行事活動反省、次年度重点活動目標設定について

平成19年度 決 算 書

(収入の部)

費目	予 算	決 算	増減(△印減)	摘 要
1. 会 費	0	0	0	
2. 終身会費	5,600,000	5,500,000	△ 100,000	入学者275 19名未納
3. 雑 収 入	150,000	138,684	△ 11,316	利息その他
4. 繰 越 金	1,481,490	1,481,490	0	
計	7,231,490	7,120,174	△ 111,316	

(支出の部)

費目	予 算	決 算	増減(△印減)	摘 要
1. 会 議 費	500,000	228,754	△ 271,246	支部長会・理事会
2. 旅 費	300,000	245,820	△ 54,180	支部長会
3. 印 刷 費	1,300,000	880,000	△ 420,000	会報年2回
4. 通 信 費	700,000	337,500	△ 362,500	会報発送、連絡費
5. 慶 弔 費	200,000	80,576	△ 119,424	
6. 給 与 費	800,000	800,000	0	
7. 備 品 費	350,000	63,218	△ 286,782	
8. 消 耗 品 費	550,000	59,152	△ 490,848	封筒、ラベル・コピー代等
9. 支 部 助 成 費	700,000	444,700	△ 255,300	
10. 卒 業 記 念 費	400,000	182,700	△ 217,300	文鎮
11. 雑 費	250,000	88,115	△ 161,885	
12. 国 際 交 流 基 金	250,000	250,000	0	
13. 予 備 費	931,490	0	△ 931,490	
計	7,231,490	4,761,883	△ 2,469,607	
残 高		3,459,639		

平成20年度 予 算 書

(収入の部)

費目	本 年 度	前 年 度	増 減	摘 要
1. 会 費	200,000	0	200,000	
2. 終身会費	5,400,000	5,600,000	△ 200,000	入学者240名+63名
3. 雑 収 入	140,000	150,000	△ 10,000	利息、寄付金等
4. 繰 越 金	3,459,639	1,481,490	1,978,149	
計	9,199,639	7,231,490	1,968,149	

(支出の部)

費目	本 年 度	前 年 度	増 減	摘 要
1. 会 議 費	900,000	500,000	400,000	支部長会・理事会
2. 旅 費	650,000	300,000	350,000	支部長会
3. 印 刷 費	1,200,000	1,300,000	△ 100,000	会報年2回
4. 通 信 費	700,000	700,000	0	会報発送、連絡費
5. 慶 弔 費	200,000	200,000	0	
6. 給 与 費	800,000	800,000	0	
7. 備 品 費	450,000	350,000	100,000	
8. 消 耗 品 費	600,000	550,000	50,000	封筒、ラベル、コピー代等
9. 支 部 助 成 費	700,000	700,000	0	
10. 卒 業 記 念 費	400,000	400,000	0	文鎮
11. 国 際 交 流 基 金	250,000	250,000	0	
12. 雑 費	300,000	250,000	50,000	
13. 積 立 費	1,000,000	0	1,000,000	
14. 予 備 費	1,049,639	931,490	118,149	
計	9,199,639	7,231,490	1,968,149	

平成 20 年度 役 員 表

愛媛大学教育学部同窓会

本 部	顧問	壽 卓 三・兵 頭 寛		監 事	岡 本 純 輝		常任幹事	菅 田 顕
	会長	奥 定 一 孝			替 地 和 人			
	副会長	平 松 義 樹	峯 本 高 義	村 上 朋 子	升 田 守	垂 水 葉 子		
	理 事	池 内 謙 三	増 池 武 雄	森 貞 聰	山 下 德 寧	満 田 泰 三		
		水 口 敬	大 野 慶 一	郷 田 光 生	山 下 雅 司	高 橋 治 郎		
		菊 川 國 夫	友 近 温 寿	鮎 田 崎 子	阿 部 晋	鎌 田 サチ子		
押 岡 佳 子		菊 池 晶 子	橋 村 誠	正 岡 義 憲	山 本 千 鶴子			
	烏 谷 真由美	児 玉 善 民	大 森 尚 慶	萩 野 さくら	松 浦 道 子			

支 部 名		支 部 長		副 支 部 長		副 支 部 長	
四 国 中 央 市	川之江・新宮	三 好 伊佐子	妻 鳥 小	好 井 邦 嘉	川 滝 小	松 本 謙 吉	川之江小
	伊予三島	日 浦 正 文	中 之 庄 小	河 村 岳 則	寒 川 小	鈴 木 惠 子	中 之 庄 小
	土 居	好 井 秀 彰	土 居 小	和 田 貴 臣 男	北 小	武 村 麻 知	土 居 小
新 居 浜	浦 江 賢 治	東 中	濱 田 英 稔	泉 川 小	佐々木 篤 志	船 木 小	
西 条	川 上 善 秋	西 条 小	小笠原 澄 恵	氷 見 小	加 藤 美 江	飯 岡 小	
東 予・周 桑	井 上 芳 春	多 賀 小	秋 山 穂 積	周 布 小	山 本 啓 司	壬 生 川 小	
今 治	橋 田 一 美	別 宮 小	菅 政 治	波 方 小			
今 治・越 智	井 原 涉	吉 海 中	山 崎 美 和 子	亀 岡 小			
松 山・北 条	替 地 和 人	河 野 小	倉 橋 健 二	正 岡 小	白 石 幸 枝	立 岩 小	
松 山	岡 本 純 輝	潮 見 小	後 藤 陽 三	久 枝 小	森 健	中 島 中	
東 温	中 尾 順 子	拝 志 小	宇 高 希 美	拝 志 小	和 田 利 男	川 上 小	
伊 予	松 尾 多 美 子	港 南 中	渡 辺 正 治	岡 田 中	石 丸 幸 子	伊 予 小	
上 浮 穴	小 野 敏 信	久 万 中	平 松 恭 助	直 瀬 小	渡 邊 裕 子	面 河 小	
大 洲	菊 池 文 恵	新 谷 小	西 山 富 治 雄	大 洲 北 中	垣 見 節 子	長 浜 小	
喜 多	小 野 誠 一	小 田 中	平 尾 好 廣	參 川 小	坂 田 康 弘	田 渡 小	
八 幡 浜	楠 橋 恒 雄	川 之 石 小	岩 井 源 一	松 蔭 小	河 野 和 恵	川 之 内 小	
西 宇 和	長 野 照 道	伊 方 小	道 岡 喜 好	九 町 小	辰 野 晴 美	佐 田 岬 小	
西 予	勇 功	大 和 田 小	浅 野 尚 也	田 之 筋 小	三 好 知 子	二 木 生 小	
宇 和 島	河 野 通 夫	三 浦 小	矢 野 淳 一	二 名 小	西 本 紀 子	玉 津 小	
北 宇 和	山 口 眞 理 子	愛 治 小	高 田 展 明	松 野 中	古 谷 玲 子	好 藤 小	
南 宇 和	井 上 洋 子	平 城 小	宮 本 裕 司	深 浦 小	松 本 清 隆	平 城 小	
附 属	小 玉 善 民	附 特別 支援					

県 外 支 部	東 京	武 田 敏 文	本 山 定 男	
	京 都	河 野 直 樹		
	大 阪	本 宮 久	神 垣 鉄 雄	杉 山 容 子
	神 戸	木 原 孝 造	平 山 昇	加 登 康 智

編 集 委 員	菅 田 顕	峯 本 高 義	菊 川 国 夫	村 上 朋 子	山 下 雅 司
---------	-------	---------	---------	---------	---------

会報送料・寄付者名

平成18年～19年

平成20年1月～7月

井伊邦子 稲井美水 松本有子 森弘子 佐野良子 大野伊平 高橋大蔵 大野久子 岡田豊 向井正夫 永井恒男 薬師正則 森岡俊一 岡添幸恵 竹内徹 佐伯幸子 友澤悟 佐伯洋 森本洋 渡部キヨ子 平井義雄 渡部ミサヲ 二宮静子

土居健一 松浦侑子 友近巽 窪田重治 河野栄一 藤田孝俊 本田ヤエミ 西田裕至 宇都宮光 金子房江 豊田謙治 藤田俊雄 門川小百合 井上リツ子 孝橋静子 保科理恵 安平カヲリ 西田雅子 杉本充恵 安藤亮子 藤原麻雄 横山百合子 上甲八千代

鮎川瓊愛 荻田キミ 北田久仁輝 山成克昌 岡部克巳 山岡ヨシ 加藤成子 藤原謙一 平山千代子 橋本幸 重松六郎 渡辺富美子 吉澤美恵子 大城カズ子 菅邦生 宮野マユコ 武市強 岡田正行 日高富佐子 阿部サツキ 井原愛子 関谷茂包 山城克昌 天野三弘

岡部克己 宮内泰三 真鍋寛 亀岡孝次郎 大森敬子 徳永易丈 谷崎文雄 宮野スマ子 重政謙一 宇都宮光

※ 同窓会への諸連絡がございましたら、教育学部同窓会のインターネットをご利用ください。
アドレスにつきましては、同会報の十四ページをご参照ください。

愛媛大学・(財)白楊会館
結婚相談所・MCC
(Marriage Counseling Center) からお知らせ
結婚相談してみませんか

♡素敵な出合いを♡

皆様の幸せな結婚を願っています。どうぞお気軽にご相談ください！多数のお申し込みをスタッフ一同お待ちしております！

申し込み手続きについて

● 申込書 MCCにある用紙に記入のうえ、身上書一部を添付してください。なお、申込書については、MCCにご請求ください。
● 写真二～三枚。
（一年以内に撮影したカラーでサービス版程度のスナップが望ましい。）

費用について

● 申込金一万円、諸経費二万円（三年間有効）、計三万円が必要です。

これについては、同封の郵便局振込用紙を使用して振り込み、領収書を同封してください。なお、三年経過後の継続は、諸

経費の二万円を同様の方法で振り込んでください。
● お見合い費用は、双方のご負担と致します。
● 結婚ご成立の際は、双方から二万五千円ずつ、計五万円をいただきます。

連絡は

毎週水曜日

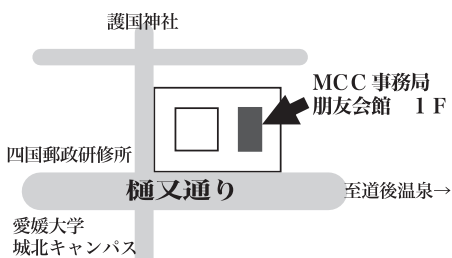
午後一時から午後五時まで

電話番号 (FAX兼用)

(089) 9233-7210

愛媛大学・(財)白楊会館
結婚相談所・MCC(Marriage Counseling Center)
〒790-0825

愛媛県松山市道後樋又十番十三号
TEL (FAX兼用)
(089) 924-7910



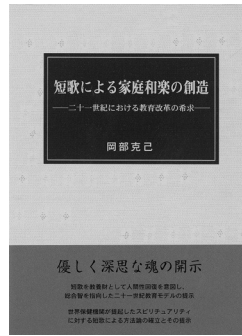
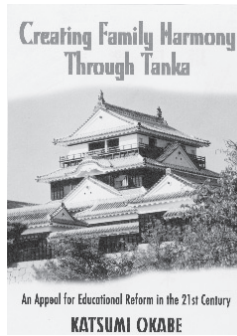
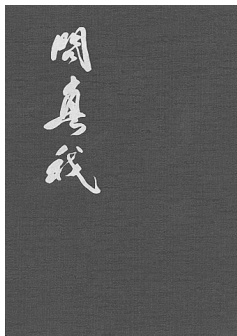
敬 弔 (物故会員)

(死亡年月日)

(氏 名)

20・3・1	20・2・28	20・2・21	20・2・17	20・2・15	20・2・14	20・2・2	20・1・29	20・1・25	20・1・24	20・1・24	20・1・15	20・1・11	20・1・10	20・1・21	19・10・25		
菅原光子 (昭13・女子師)	越智勝 (昭12・本科二)	渡辺雄登三 (昭8・本科一)	丸木一雄 (昭26・愛大)	矢野清 (昭14・本科二)	都築ヒサノ (昭17・本科二)	井上助次郎 (昭25・愛大)	田村幸男 (昭30・愛大)	高橋良弘 (昭28・愛大)	門田久彰 (昭20・本科)	兵頭玄一 (昭29・愛大)	石崎一郎 (昭6・本科二)	木曾紀 (昭31・愛大)	高田毅 (昭31・愛大)	野本伸一 (昭22・本科)	稲荷正常 (昭22・本科)		
20・5・26	20・5・17	20・5・8	20・5・1	20・4・29	20・4・29	20・4・16	20・4・10	20・4・5	20・4・6	20・3・26	20・3・21	20・3・17	20・3・15	20・3・13	20・3・8	20・3・8	20・3・5
神野利三郎 (昭19・愛師)	堀内忠雄 (昭20・本科)	森田晴寛 (昭17・本科二)	四ツ田喜美子 (昭12・本科二)	坂本光 (昭17・本科二)	水溜保志 (昭26・愛大)	友沢喜与子 (昭4・本科二)	杉浦行男 (昭16・本科二)	長野富貴枝 (昭8・本科二)	増田雅譽 (昭13・本科二)	加藤孝子 (昭5・本科二)	真木文雄 (昭20・本科)	矢野貞 (昭4・本科二)	浮穴政成 (昭14・本科二)	清家泰久 (昭26・愛大)	大野政友 (昭7・本科二)	高市徳 (昭24・本科)	近藤福太郎 (昭13・専科)

寄 贈 図 書



「問真我」
 寄贈者・著者 末光 博
 寄贈者 末光 幸子
 B5版 二二三頁
 発行者 末光 幸子

「短歌による家庭和楽の創造」
 寄贈者・著者 岡部 克己
 B5版(英語版含む) 九十七頁
 発行者 (株)日本図書刊行会

原 稿 募 集

—次号 第一〇七号—

短くても結構です。多くの方々の
お気軽なご寄稿をお待ちしておりま
す。

- ★ 「今、教育に思うこと」を特集
します。ふるってご投稿下さい。
- ★ 同期会や支部同窓会などの集会
や活動について
- ★ 恩師・先輩・同僚の訪問や思い
出について
- ★ 職場の近況や所感や活動につい
て
- ★ 文芸(随想・俳句・川柳・短歌・
詩等)について
- ★ 会員便り
- ★ 1旅行記 4この頃思うこと
- ★ 2季節便り 5忘れ得ぬ人など
- ★ 3教育雑感
- ※ 投稿が多数になった場合には、
編集委員会で選ばせて載せますの
で、ご了承ください。
- ◇
- ★ 原稿不切 十一月三十日
- ★ 発行 二月一日 予定
- ★ 字数
- ★ 依頼者以外は千二百字厳守
- 四〇〇字詰原稿用紙の一行を
十五字にして書いて下さい。
- ★ 写真
- ★ 筆者の顔写真を添付してくださ
い。別に内容に関連した写真も
あれば送ってください。